November 2023
NHK Symphony Orchestra, Tokyo

MONTHLY PAMPHLET 11

終演時のカーテンコールを撮影していただけます

スマートフォンやコンパクトデジタルカメラなどで撮影していただけます。
SNSでシェアする際には、ハッシュタグ「#N響」「#nhkso」の追加をぜひお願いいたします。
ほかのお客様の映り込みにはご注意ください。

※撮影はご自席からとし、手を高く上げる、望遠レンズや三脚を使用するなど、
周囲のお客様の迷惑となるような行為はお控えください

You are free to take stage photos during the curtain calls at the end of the performance.

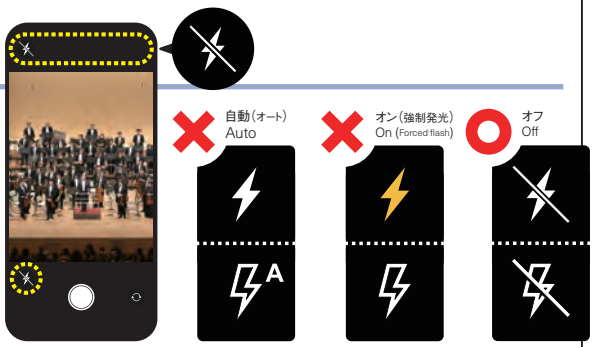
You can take photos with your smartphone or compact digital camera.
When you share the photos on social media, please add #nhkso.
Be careful to avoid accidentally including any audience members in your photos.

「フラッシュ」オフ設定確認のお願い

撮影前に、スマートフォンのフラッシュ設定が「オフ」になっているかご確認をお願いいたします。

Set your device to "flash off mode."

Make sure that your smartphone is on "flash off mode" before taking photos.



スマートフォンのフラッシュをオフにする方法 | 多くの機種では、カメラ撮影の画面の四隅のどこかに、フラッシュの状態を示す⚡(カミナリマーク)を含むアイコンが表示されています。これをタップすることで、「オン(強制発光)」「自動(オート)」「オフ」に変更できます。

インターネットアンケートにご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。ご鑑賞いただいた公演のご感想や、N響の活動に対するみなさまのご意見を、ぜひお寄せください。ご協力をお願いいたします。

詳しくは51ページをご覧ください

こちらのQRからアンケートページへアクセスできます

https://www.nhkso.or.jp/enquete.html

お客様へのお願い

Please kindly keep in mind the following:

公演中は携帯電話、時計のアラーム等は必ずお切りください
Be sure to set your phone to silent mode and turn off your watch alarm etc. during the performance.

私語、パンフレットをめくる音など、物音が出ないようご配慮ください
Please refrain from making any noise, such as engaging in private conversations or turning booklet pages.

発熱等の体調不良時にはご来場をお控えください
Please refrain from visiting the concert hall if you have a fever or feel unwell.

演奏は最後の余韻までお楽しみください
Please wait until the performance has completed before clapping hands or shouting "Bravo."

演奏中の入退場はご遠慮ください
Please refrain from entering or leaving your seat during the performance.

適切な手指の消毒、咳エチケットにご協力ください
Your proper hand disinfection and cough etiquette are highly appreciated.

場内での録画、録音、写真撮影は固くお断りいたします
(終演時のカーテンコールをのぞく)
Video or audio recordings, and still photography at the auditorium are strictly prohibited during the performance.
(Except at the time of the curtain calls at the end of the concert.)

補聴器が正しく装着されているかご確認ください
Please make sure that your hearing aids are properly fitted.

「ブラボー」等のお声掛けをされる際は、マスクの着用にご協力をお願いいたします
Please wear a face mask when shouting "Bravo."

PHILHARMONY

CONTENTS
NOVEMBER 2023

11

3 ［ニュース］下野竜也氏 NHK交響楽団正指揮者に就任

4 特集 最も心に残ったN響コンサート&ソリスト2022–23

10 ［公演プログラム］Aプログラム

18 ［公演プログラム］Bプログラム

25 ［公演プログラム］Cプログラム

31 ［シリーズ］N響百年史 | 第41回 | 近衛時代終焉前夜 片山杜秀

35 2023年12月定期公演のプログラムについて――公演企画担当者から
37 チケットのご案内
38 2023–24定期公演プログラム
40 特別公演／各地の公演
45 NHK交響楽団メンバー
46 特別支援・特別協力・賛助会員
50 曲目解説執筆者／Information
51 みなさまの声をお聞かせください！
52 NHK SYMPHONY ORCHESTRA, TOKYO Members

Artist Profiles & Program Notes

53 Program A
57 Program B
61 Program C

65 The Subscription Concerts Program 2023–24
67 N響関連のお知らせ
68 役員等・団友

Special Thanks

NHK SYMPHONY ORCHESTRA
TOKYO

特別支援	With Special Support of
岩谷産業株式会社	Iwatani Corporation
三菱地所株式会社	Mitsubishi Estate Co., Ltd.
MIZUHO みずほ銀行	Mizuho Bank, Ltd.
公益財団法人 渋谷育英会	Shibuya Scholarship Foundation

NHK交響楽団は上記の各社から特別支援をいただいております。

2020年2月、ウィーン・コンツェルトハウスにて
©Lukas Beck

下野竜也氏
NHK交響楽団 正指揮者に就任
12月に伝統の「N響第9」を指揮

NHK交響楽団は、当団創立記念日の佳節である2023年10月5日、日本を代表する指揮者のひとりとして活躍する下野竜也氏を正指揮者に迎えました。

下野氏がN響正指揮者に就任して初めての共演は、N響が年末に積み重ねてきた日本の風物詩ともいうべき“N響第9”です。近年ますます息の合った演奏を繰り広げている下野氏とN響の芸術的成果を、ベートーヴェンの不朽の名作《交響曲第9番「合唱つき」》でご堪能いただける、またとない機会になることでしょう。

下野氏の就任により、N響正指揮者は2010年に就任した尾高忠明氏との、2名体制になります。ますます充実する指揮者陣とN響のこれからの演奏活動にご期待ください。

下野竜也｜Tatsuya Shimono

1969年鹿児島生まれ。これまでに読売日本交響楽団首席客演指揮者、京都市交響楽団常任首席客演指揮者を歴任。現在広島交響楽団音楽総監督および広島ウインドオーケストラ音楽監督を務める。2024年4月、札幌交響楽団首席客演指揮者に就任予定。N響には2005年に初登場し、以後定期公演では20世紀作品と古典を組み合わせるなど意欲的なプログラムを披露する一方で、全国各地の演奏会では名曲を通じてオーケストラの醍醐味を幅広く伝えている。

こちらのQRから、下野氏のメッセージとより詳しいプロフィールをご覧いただけます

© Naoya Yamaguchi

下野竜也氏が指揮する「N響第9」公演情報はp. 40をご覧ください

最も心に残ったN響コンサート&ソリスト2022–23

1997年に「N響ベスト・コンサート」として始まって以来、今回で24回目を迎える「最も心に残ったN響コンサート＆ソリスト」。新型コロナウイルス感染症拡大の影響下で、2020年、2021年と2年続けて実施を見合わせておりましたが、今回から定期公演のシーズンに合わせる形で再開いたします。

2022–23シーズン（2022年9月～2023年6月）の定期公演から、演奏をお聴きになったみなさまに投票をお願いし、今回は過去最多の900近くの票が集まりました。みなさまの思い出がどのように順位に反映されているでしょうか。投票にご参加いただいたみなさま、ご協力ありがとうございました。

最も心に残った

N響コンサート2022–23

第1位 | 10月Aプロ | 第1965回 2022年10月15、16日

マーラー／交響曲 第9番 ニ長調

ヘルベルト・ブロムシュテット（指揮）

ブロムシュテットさんとN響の長年の信頼の上に奏でられた唯一無二の音楽でした。両者ともに献身的でかつ妥協を許さない演奏から、マーラーの霊感のようなものさえ感じました。生涯忘れることのない演奏会です。（谷原秀典）

ラジオで2回聴いて、さらにテレビ放送も視聴しましたが、それでも感動しました！ ブロムシュテットとマーラーの相性がすばらしく良かった。思わず呼吸を止めて聴いてしまうような名演でした。断トツ1位です！（山田華子）

最も好きな曲を、ブロムシュテット指揮で聴くことが出来た奇跡的公演。最後の音が消えてからのNHKホールの長い沈黙とTVで視聴した時のブロムシュテットの涙が忘れられない。（川村伸一）

ブロムシュテットさんが来日してくれて本当にうれしかったのと、N響のみなさんが彼の音楽を一粒も漏らさないように演奏している、その音楽の渦に呑（の）み込まれた気がしたからです。マーラーの曲は自然の奏でる音をイメージしますが、この日の演奏は宇宙の音という気がしました。（あぷりる）

N響定期会員1年目の初心者の私には、マーラーを聴くにはまだ早いと思っていましたが、とても感激しました。高齢のマエストロの渾身の指揮にもとても心打たれ、涙が止まらないほどでした。定期会員になって、すばらしい曲に出会えて感謝です。（spica）

小さい頃から何度も聞いても分からない曲ですが、この演奏を聞いていた時ふわっと体が浮く感覚がしたのを覚えています。今もまだ理解できそうにはないですが、ブロムシュテットさんの演奏をもっと聞きたいなと強く思いました。（おかゆ）

ホールに入る前から張りつめた緊張感が漂い、マエストロが現れた瞬間からホール全体がひとつになり演奏に集中した稀有（けう）の体験。稀代（きだい）の名演。（二本柳啓文）

マエストロの渾身（こんしん）の指揮、生命力溢（あふ）れる音楽に文字通り魂が揺さぶられた。カーテンコールはまさに一幅の名画のような光景で到底涙を堪（こら）えることができなかった。（田口俊明）

第2位 | 11月Aプロ | 第1968回 2022年11月12、13日

伊福部 昭／シンフォニア・タプカーラ

ショスタコーヴィチ／交響曲 第10番 ホ短調 作品93

井上道義（指揮）

指揮者井上道義渾身（こんしん）のショスタコーヴィチ。引退表明には驚き残念な思いですが、この演奏会も忘れ難い思い出となりました。（ナカダテフミヤ）

井上マエストロの真骨頂、狂気を垣間見た記憶に残る公演でした。特に伊福部さんの畳みかけるオスティナートを一心不乱に奏でる楽員の姿（特に横島さん）がいまだ忘れられません！（阪本 健）

実際に聴きに行って、井上氏の踊るような指揮を目の前にできたことに加え、初めて聞く《シンフォニア・タプカーラ》の圧倒的な音圧とリズムに心を強く揺さぶられたから。（眞鍋 元）

マエストロ井上の音楽人生を凝縮したプログラムでした。私も定年を2024年春に迎えるので感慨深かったです。（倉田郁雄）

第3位 | 9月Aプロ | 第1962回 2022年9月10、11日

ヴェルディ／レクイエム

ファビオ・ルイージ（指揮）　ヒブラ・ゲルズマーワ（ソプラノ）　オレシア・ペトロヴァ（メゾ・ソプラノ）
ルネ・バルベラ（テノール）　ヨン・グァンチョル（バス）　新国立劇場合唱団（合唱）

ファビオ・ルイージさんの情熱、培ってこられた信用と人脈、幅の広いレパートリー、そしてNHK交響楽団との信頼関係、観客の熱気、すべてが表現されたすばらしい演奏会でした。（渡辺徹郎）

ルイージさんの首席指揮者就任コンサート。何よりも指揮者とオーケストラの共感、一体感が感じられる演奏だったのが、明るい未来を予感させるようでうれしかった。（松下脩司）

第4位 | 4月Aプロ | 第1980回 2023年4月15、16日

R. シュトラウス／「ヨセフの伝説」から交響的断章、アルプス交響曲 作品64

パーヴォ・ヤルヴィ（指揮）

N響のみなさんとアルプス登山をしたような気分になれました。特にオーボエの吉村さんのソロが雄大でパーヴォさんがほとんど棒を振らなかったところがとても印象に残りました。（堀田直美）

久しぶりのパーヴォ×N響、ダイレクトに五感を刺激するトゥッティのサウンドに懐かしさを感じました。3度目の正直でついに実現した《アルペン》を経てさらに熟成する両者の関係を今後も見つめていきたいと感じた一夜でした。（ボルケーノ男爵）

第5位 | 6月Cプロ | 第1987回 2023年6月16、17日

ショスタコーヴィチ／交響曲 第8番 ハ短調 作品65

ジャナンドレア・ノセダ（指揮）

こんなに心を鷲掴みにされる曲だったとは。皆さんの演奏もすばらしくて、活躍の場もたくさんあってより心に染みました。私の大好きな打楽器チームの皆さんも最高にかっこよかったです。（たんごろう）

指揮者とオーケストラが渾然一体となったすばらしい演奏でした。弦楽の厚みと強さがすごかった。木管、金管の奏者たちの妙技もすばらしかったです。ノセダの気迫と集中力が作曲者が表現したかった戦争の悲惨と民衆の慟哭（どうこく）を見事に描ききっていました。（平川一喜）

第6位 | 1月Bプロ | 第1976回 2023年1月25、26日

バルトーク／ヴィオラ協奏曲（シェルイ版）
ラヴェル／「ダフニスとクロエ」組曲 第1番、第2番
ドビュッシー／交響詩「海」

トゥガン・ソヒエフ（指揮）　アミハイ・グロス（ヴィオラ）

久々登場のソヒエフでしたが、魔法のようなタクトで魅了し、N響も相思相愛の見事な演奏で応えたすばらしいコンサートでした。（木村 靖）

《ダフニスとクロエ》、美しすぎる夜明けからコーダのダンスへの流れには興奮しました。（峯 俊策）

バルトーク《ヴィオラ協奏曲》を拝聴する機会は滅多になく、楽器の魅力が最大限に楽しめました。ありがとうございました♪（大塚仁子）

第7位 | 1月Cプロ | 第1975回 | 2023年1月20、21日
ラフマニノフ／幻想曲「岩」作品7
チャイコフスキー／交響曲 第1番 ト短調 作品13「冬の日の幻想」
トゥガン・ソヒエフ（指揮）

第8位 | 5月Bプロ | 第1985回 | 2023年5月24、25日
ハイドン／交響曲 第82番 ハ長調 Hob. I-82「くま」
モーツァルト／ホルン協奏曲 第3番 変ホ長調 K. 447
ベートーヴェン／交響曲 第6番 ヘ長調 作品68「田園」
ファビオ・ルイージ（指揮）　福川伸陽（ホルン）

第9位 | 12月Bプロ | 第1973回 | 2022年12月14、15日
グリンカ／歌劇「ルスランとリュドミーラ」序曲
ラフマニノフ／ピアノ協奏曲 第2番 ハ短調 作品18
ドヴォルザーク／交響曲 第9番 ホ短調 作品95「新世界から」
ファビオ・ルイージ（指揮）　河村尚子（ピアノ）

第10位 | 2月Cプロ | 第1978回 | 2023年2月10、11日
バーンスタイン／「ウエスト・サイド・ストーリー」から シンフォニック・ダンス
ラフマニノフ／交響的舞曲 作品45
ヤクブ・フルシャ（指揮）

最も心に残った

ソリスト2022–23

第1位 | 5月Cプロ | 第1984回 2023年5月19、20日

パスカル・ロジェ（ピアノ）

サン・サーンス／ピアノ協奏曲 第5番 ヘ長調 作品103「エジプト風」

アンコールのサティも絶品。（TN）

荒々しい力強さと静寂感漂う「音のコントラスト」の独特な世界感に感動しました。（コジマサナエ）

サン・サーンスの《ピアノ協奏曲第5番「エジプト風」》は初めて聴く曲でしたが、繊細かつ確かな技術で紡ぎ出される音がすばらしかったです。ロジェ氏のファンになりました。（橋本まや）

フランス音楽を知りつくし、得意とするロジェのピアノ演奏がすばらしかった。ピアノとオーケストラの掛け合いが絶妙で、今でも心に深く残っている。またN響でロジェのフランス物を扱ってもらいたい。（Yohmi. h）

若手のピアニストを聞く機会が多い昨今、ベテランの円熟の演奏、流石です。（とーちゃろう）

第2位 | 5月Bプロ | 第1985回 2023年5月24、25日

福川伸陽（ホルン）

モーツァルト／ホルン協奏曲 第3番 変ホ長調 K. 447

福川伸陽さんのホルンの音に憧れたからです。私もホルンを吹いている高校3年生なのですが、福川さんの豊かで、うっとりしてしまうような音色に憧れています。（平野優斗）

古巣に舞い戻ってくれた氏の水を得た魚のように生き生きとした音楽表現、ホルンという制約を全くものともしない驚異の技術と音楽性に、改めて感動しました。またの登場を心待ちにしています。（ひら）

第3位 | 12月Aプロ | 第1971回 2022年12月3、4日

藤村実穂子（メゾ・ソプラノ）

ワーグナー／ウェーゼンドンクの5つの詩

藤村実穂子さんの《ウェーゼンドンク》、本当にすばらしかったです。どんなに繊細な弱音部であっても、言葉ひとつひとつに想いが込められた藤村さんの歌声。大きなNHKホールの3階席でしっかり受け止めました。（にこみ）

藤村さんの安定した歌声により、瞬く間に作品世界にひきこまれました。（中塚尚子）

第4位
6月Bプロ | 第1988回
2023年6月21、22日
庄司紗矢香（ヴァイオリン）
レスピーギ／グレゴリオ風協奏曲

第5位
12月Bプロ | 第1973回
2022年12月14、15日
河村尚子（ピアノ）
ラフマニノフ／
ピアノ協奏曲 第2番 ハ短調 作品18

第6位
6月Aプロ | 第1986回
2023年6月10、11日
ベフゾド・アブドゥライモフ（ピアノ）
プロコフィエフ／
ピアノ協奏曲 第2番 ト短調 作品16

投票を通じて寄せられたみなさまの声

N響は亡くなった父が好きで、名曲アルバムのカセットテープやレコードが小さい頃から家にあり、よく聴きました。今でもN響のサウンドがなんとなく落ち着くのは父の影響かも。（まぁちゃん）

子どもの頃からテレビで拝見しておりましたが、大学生の頃からたびたび会場に足を運ぶようになり、今年ついに定期会員です。N響が大好きです！これからも応援しています！（のぐちえいこ）

Cプロの前の室内楽、とてもすばらしい試みで大拍手です。メンバー一人ひとりとの距離が縮まった気がして、ますますN響が好きになりました。（鶏ガラ）

ルイージさんが首席になってから、音がしなやかで、美しくなった！（岡本信一）

幼少期からユースチケットですばらしい演奏をたくさん聴かせていただきました。まさに「N響の音で育った」と言っても過言ではありません。昨年春に26歳になりユースチケットを卒業したので恩返しのつもりで2022–23シーズンよりABC定期会員になりました。今季もN響の演奏会を楽しみにしております。（GauGau）

いまYouTubeでやっている楽員がほかの楽器を体験する企画がおもしろいのでシリーズ化してほしい。練習中のショート動画を出してほしい。もっと楽員の方について知りたい。（までぃたん）

ABCのすべてのコンサートを妻と一緒に行っていたけれど、彼女は癌（がん）で足を運べなくなってしまいました。ひとりで聞きに行きながら、空いた彼女の席を見ながら、彼女の分まで耳を欹（そばだ）てて聞いては、感想を彼女に伝えていました。（柳 径太）

これまでひとりで通っていた定期公演に、2022–2023シーズンから、家内、そして娘をユースチケットを利用して参加させました。これにより、「ひとりだけで楽しんでいる……」という家庭内での煩わしさから解放され、本当にホッとしています。（大谷正彦）

マーラー《9番》の終楽章でブロムシュテット先生が涙を流しながら指揮していたね、と終演の拍手をしながら相方さんに話しかけようと隣を振り向いたらブロムシュテット先生の何十倍も号泣してグシャグシャになっていました。すばらしい演奏会でした。（フィガロ）

コロナ禍でしばらくNHKホールに足を運んでいなかったのですが、昨年久しぶりに上京。いつもの原宿駅で降りようとすると…… あれ？ 駅舎が様変わり。一瞬間違えて降りたのかと焦りました。東京という街のあり方を感じました。（しーもん）

今シーズン、初めて年間定期会員でN響の定期公演を聴きました。コロナの制約を乗り越えてNHKホールで生の演奏を毎回聴けたことは、本当に「大満足！」でした。（阿部直子）

招聘してほしい指揮者 ベスト5

①シャルル・デュトワ
②クラウス・マケラ
③サイモン・ラトル
④トゥガン・ソヒエフ
⑤パーヴォ・ヤルヴィ

招聘してほしいソリスト ベスト5

①ヒラリー・ハーン
②藤田真央
　ユジャ・ワン
④五嶋みどり
⑤マルタ・アルゲリッチ

PROGRAM

A

第1997回

NHKホール

11/25 土 6:00pm
11/26 日 2:00pm

指揮　ウラディーミル・フェドセーエフ

コンサートマスター　伊藤亮太郎

スヴィリドフ
小三部作[10′]
Ⅰ アレグロ・モデラート・ウン・ポーコ・ルバート
Ⅱ コン・トゥッタ・フォルツァ、
　ウン・ポーコ・マエストーソ
Ⅲ アレグロ・モデラート

プロコフィエフ
歌劇「戦争と平和」―「ワルツ」(第2場)
[6′]

A. ルビンシテイン
歌劇「悪魔」のバレエ音楽
―「少女たちの踊り」[6′]

グリンカ
歌劇「イワン・スサーニン」
―「クラコーヴィアク」[5′]

リムスキー・コルサコフ
歌劇「雪娘」組曲[13′]
Ⅰ 序奏:美しい春
Ⅱ 鳥たちの踊り
Ⅲ ベレンデイ皇帝の行列
Ⅳ 軽業師の踊り

――休憩(20分)――

チャイコフスキー(フェドセーエフ編)
バレエ組曲「眠りの森の美女」[39′]
Ⅰ 行進曲(プロローグ第1曲)
Ⅱ 踊りの場(プロローグ第2曲)
Ⅲ パ・ド・シス(プロローグ第3曲)
Ⅳ ワルツ(第1幕第6曲)
Ⅴ パ・ダクシオン(第2幕第15曲a〈オーロラ姫とデザイア王子の情景〉)
Ⅵ オーロラ姫のヴァリアシオン(第2幕第15曲b)
Ⅶ パノラマ(第2幕第17曲)
Ⅷ アダージョ(第3幕第25曲a〈パ・ド・カトル〉)
Ⅸ テンポ・ディ・マズルカ(第3幕第30曲〈終曲〉)
Ⅹ サラバンド(第3幕第29曲)
Ⅺ 銀の妖精(第3幕第23曲〈ヴァリアシオンⅡ〉)
Ⅻ アダージョ(第1幕第8曲a〈パ・ダクシオン〉)

※当初発表の曲目から変更となりました。
※演奏時間は目安です。

インターネットアンケートにご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。みなさまの貴重なご意見を参考にさせていただきたく、ぜひお声をお寄せください。ご協力お願いいたします。

詳しくは51ページをご覧ください

こちらのQRから
アンケートページへアクセスできます

https://www.nhkso.or.jp/enquete.html

Artist Profile

ウラディーミル・フェドセーエフ（指揮）

©Roman Gorokhov

1932年レニングラード（現サンクトペテルブルク）に生まれ、モスクワのチャイコフスキー音楽院（モスクワ音楽院）などで学ぶ。1971年、巨匠ムラヴィンスキーからレニングラード・フィルハーモニー交響楽団の客演指揮者として招かれたことをきっかけに、輝かしいキャリアをスタートした。1974年にはモスクワ放送交響楽団（現チャイコフスキー交響楽団）の音楽監督および首席指揮者に就任。以来、同楽団をロシアのトップクラスに育て上げ、現代オーケストラ界では異例の50年近いパートナーシップを築いている。

また、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団をはじめとする世界の主要楽団にも多数客演し、1996年より東京フィルハーモニー交響楽団の首席客演指揮者、1997年から2004年までウィーン交響楽団の首席指揮者を歴任。首席客演指揮者を務めたチューリヒ歌劇場や、ウィーン国立歌劇場、ミラノ・スカラ座ほかオペラハウスでの実績も光っている。加えて録音は膨大で受賞も多数。

N響とは2013年5月に初共演。以来たびたび客演し、今年3月の近畿公演でも健在ぶりを示している。自国のオペラ・バレエの名曲を主体とした今回のプログラムは本領発揮に相応しく、確かな構築の中に迫力や色彩感を湛（たた）えたその音楽に触れる機会も今や貴重そのもの。約5年ぶりの定期登場に大きな期待が集まる。

［柴田克彦／音楽評論家］

Program Notes｜増田良介

ウラディーミル・フェドセーエフは1932年8月生まれだから公演時には91歳、ソ連時代から活躍する数少ない巨匠のひとりだ。そんなマエストロがまた日本に来て、NHK交響楽団を指揮してくれるというだけでありがたいのに、彼が長年にわたって愛奏してきた十八番（おはこ）ばかりがずらりと並ぶ、このプログラムのすばらしさはどうだろう。これは、日本をこよなく愛するマエストロから日本のファンへの最高の贈り物と言えるだろう。

スヴィリドフ

小三部作

ゲオルギー・スヴィリドフ（1915～1998）は、ソ連時代のロシアで活躍した作曲家で、ショスタコーヴィチの最初の弟子のひとりでもある。主として声楽曲、特に合唱曲の分野に、親しみやすく叙情性のあふれる傑作を多く残した。管弦楽曲は少ないが、映画『吹雪』や『時よ、前進！』のための音楽、そしてこの《小三部作》などは、ロシア音楽好きにはよく知られている。フェドセーエフはスヴィリドフの作品を昔から積極的に演奏しており、合唱付きの作品を含め、録音も多い。《小三部作》は1964年の作品で、弱音器付きの弦楽器がロシア正教の聖歌風の旋律を歌う**第1曲**（アレグロ・モデラート・ウン・ポーコ・ルバート）、トロンボーンやテューバの重厚な咆哮（ほうこう）ではじまる**第2曲**（コン・トゥッタ・フォルツァ、ウン・ポーコ・マエストーソ）、チェレスタ、ハープ、ピアノの刻む和音にのせて、ヴァイオリンとフルートがくっきりとした旋律を歌う**第3曲**（アレグロ・モデラート）からなる。

作曲年代	1964年
初演	1966年2月5日、エフゲーニ・スヴェトラーノフ指揮、ソヴィエト国立交響楽団
楽器編成	フルート3、オーボエ3（イングリッシュ・ホルン1）、クラリネット2、バス・クラリネット1、ファゴット3（コントラファゴット1）、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、テューバ1、ティンパニ1、小太鼓、トライアングル、シンバル、サスペンデッド・シンバル、大太鼓、タムタム、グロッケンシュピール、ハープ1、チェレスタ1、ピアノ1、弦楽

プロコフィエフ

歌劇「戦争と平和」―「ワルツ」（第2場）

セルゲイ・プロコフィエフ（1891～1953）は、生涯に7作のオペラを完成した。文豪レフ・トルストイの有名な長編小説に基づく《戦争と平和》は、晩年の作曲者が心血を注いだ大作だ。プロコフィエフは1941年にこの作品を書きはじめ、1943年には初稿を完成しているのだが、長大で登場人物の非常に多い作品とあって、上演はなかなか実現しなかった。作曲者は、亡くなるまでの10年間、何度も改訂を繰り返したが、結局、彼の生前に完全な上演が実現することはなかった。現在上演される場合も、ある程度の短縮が行われることが多い。本作の中心的な登場人物であるナターシャ・ロストヴァとアンドレイ・ボルコンスキーが舞踏会ではじめて言葉を交わす場面で演奏されるワルツは、本作でもっとも有名な曲のひとつで、単独で演奏される場合も少なくない。プロコフィエフ自身も、のちに、管弦楽のための《ワルツ組曲》（作品110）に含めたり、ピアノ編曲を行ったりしている。

作曲年代	1941〜1952年
初演	1946年6月12日、レニングラード、マールイ劇場、サムイル・サモスード指揮（2部構成のうち第1部のみの上演）
楽器編成	フルート2、ピッコロ1、オーボエ2、イングリッシュ・ホルン1、クラリネット2、バス・クラリネット1、ファゴット2、コントラファゴット1、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、テューバ1、ティンパニ1、トライアングル、タンブリン、小太鼓、サスペンデッド・シンバル、大太鼓、グロッケンシュピール、ハープ1、弦楽

A. ルビンシテイン

歌劇「悪魔」のバレエ音楽―「少女たちの踊り」

現在、アントン・ルビンシテイン（1829〜1894）の作品を耳にすることは少ないが、彼はロシアの音楽史上もっとも重要な音楽家のひとりだ。ルビンシテインは当時最高のピアニストであり、オペラや交響曲など多数の作品を書いた作曲家であり、多くの新しい作品を紹介した指揮者であり、サンクトペテルブルク音楽院を創設してチャイコフスキーらを育てた教育者でもあった。13曲ある彼のオペラのうち、レールモントフの原作に基づいて1871年に書かれた《悪魔》はもっとも有名な作品で、ロシアでは現在でもときどき上演される。物語は、公女タマラに恋をした悪魔が彼女を誘惑し、ついに口づけを奪うが、タマラは死んで救済され、悪魔は永遠の孤独を宣告されるというものだ。〈少女たちの踊り〉は、第2幕、タマラとシノダル王子の結婚式の前に踊られるバレエ音楽の一部で、この直後、結婚式に向かう道中、タタール人に襲撃されたシノダル王子の遺体が運び込まれる。

作曲年代	1871年
初演	1875年1月25日（ロシア旧暦13日）、サンクトペテルブルク、マリインスキー劇場、エドゥアルド・ナプラヴニク指揮
楽器編成	フルート2、ピッコロ1、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、ティンパニ1、シンバル、弦楽

グリンカ

歌劇「イワン・スサーニン」―「クラコーヴィアク」

ミハイル・グリンカ（1804〜1857）の《歌劇「イワン・スサーニン」》は、1836年に完成された。農民イワン・スサーニンが、若き皇帝ミハイルを殺そうとするポーランド軍を騙（だま）して森の奥へと導き、自らを犠牲にして皇帝を救うという物語を、民謡風の旋律を取り入れた音楽によって描くこの作品は、最初のロシア的なオペラとして成功を収め、グリンカは、この作品によって、ロシア音楽の祖として後世まで敬愛されることになった。この歌劇の第2幕は、ポーランド軍の陣営で催される舞踏会の場面で、ポロネーズ、クラコーヴィア

ク、マズルカ（いずれもポーランドの民族舞曲）、それにワルツといった舞曲が登場する。クラコーヴィアクはシンコペーションが特徴的な2拍子の舞曲で、グリンカの時代、ウィーンやパリ、そしてロシアでも非常に人気があった。なお、ショパンの《ピアノ協奏曲第1番》の終楽章にもクラコーヴィアクのリズムが取り入れられている。

作曲年代	1836年
初演	1836年12月9日（ロシア旧暦11月27日）、サンクトペテルブルク、ボリショイ・カーメンヌイ劇場、カッテリーノ・カヴォス指揮
楽器編成	フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、ティンパニ1、弦楽

リムスキー・コルサコフ

歌劇「雪娘」組曲

ニコライ・リムスキー・コルサコフ（1844〜1908）が生涯を通じてもっとも力をそそいだのは、完成したものだけで15作に及ぶ、オペラの分野だった。第3作《雪娘》は、アレクサンドル・オストロフスキーの同名の童話にもとづき、1881年に完成した作品で、プロローグと全4幕からなる大作だ。物語はやや複雑だが、中心となっているのは、マロース翁（厳寒の擬人化）と「春の美」の間に生まれたスニェグーロチカ（雪娘）が、愛に強く憧れて人間界に赴き、愛を知ったために朝日を浴びて消えてしまうという、神話的、民俗的な物語だ。リムスキー・コルサコフの音楽は、オーケストレーションのすばらしさは言うまでもなく、ライトモティーフなどの技法も効果的に用いた見事なもので、作曲者自身、《雪娘》は自分の最高のオペラだと考えていたようだ。組曲は1895年に出版されたもので、4曲からなる。

第1曲〈序奏：美しい春〉 全曲の序奏。氷に閉ざされた冬とおだやかな春が表現される。

第2曲〈鳥たちの踊り〉 プロローグ後半より。オペラでは女声合唱とソプラノが入るが、組曲では管弦楽のみで演奏されることが多い。

第3曲〈ベレンデイ皇帝の行列〉 第2幕より。雪娘は、他人の恋人を奪ったかどで皇帝の前に呼び出される。

第4曲〈軽業師の踊り〉 第3幕より。太陽神ヤリーロを讃（たた）える日の前に行われる祭りの一環。

作曲年代	[オペラ]1880年2月～1881年3月　[組曲]1895年
初演	1882年2月10日(ロシア旧暦1月29日)、サンクトペテルブルク、マリインスキー劇場、エドゥアルド・ナプラヴニク指揮
楽器編成	フルート2、ピッコロ1、オーボエ2(イングリッシュ・ホルン1)、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、テューバ1、ティンパニ1、大太鼓、シンバル、タンブリン、タムタム、トライアングル、サスペンデッド・シンバル、弦楽

チャイコフスキー(フェドセーエフ編)

バレエ組曲「眠りの森の美女」

ピョートル・イリイチ・チャイコフスキー(1840～1893)の三大バレエ、すなわち《白鳥の湖》《眠りの森の美女》《くるみ割り人形》という3作品は、いずれもバレエの歴史における屈指の名作として、現在でも世界各地で上演されている。このうちの第2作にあたる《眠りの森の美女》は、サンクトペテルブルクの帝室劇場(マリインスキー劇場)の支配人だったイワン・フセヴォロシスキーからの依頼により1888年に着手された。フセヴォロシスキーは、当時衰退していたロシア・バレエを改革するには質の高いバレエ音楽が必要だと考え、チャイコフスキーに作品を依頼したのだった。

原作は、古い伝説にもとづいてフランスの詩人シャルル・ペローが著した童話で、台本はフセヴォロシスキー自身が担当した。チャイコフスキーは、振付師プティパの事細かな注文に応じつつ仕事を進め、翌年5月にスケッチの形で完成、8月後半には全曲のオーケストレーションも終了した。劇場側のこの作品に対する力の入れようは並々ならぬもので、多額の費用をかけ、最高の踊り手たちを集め、リハーサルには皇帝アレクサンドル3世も臨席したという。1890年1月に行われた初演は、《白鳥の湖》ほどの失敗ではなかったが、大成功にはほど遠いものだった。皇帝は短い称賛の言葉を与えたが、これもチャイコフスキーが期待していたほどの反応ではなかったようだ。作品は、フセヴォロシスキーに献呈された。20歳の誕生日に邪悪な妖精の魔法で長い眠りにつき、100年後にデザイア王子の接吻(せつぷん)で目覚めるオーロラ姫の物語はあまりにも有名だ。

《白鳥の湖》や《くるみ割り人形》と同様、この作品は、バレエとして上演されるにとどまらず、オーケストラの演奏会で取り上げられることも非常に多い。その場合、一般的には5曲からなる組曲が演奏されることが多いが、本日は、フェドセーエフ自身が編んだ大規模なセレクションが演奏される。

第1曲〈行進曲〉(プロローグ第1曲)　フロレスタン14世の城の大広間。待望の王女オーロラ姫が生まれ、廷臣たちや侍女たちが、忙しそうに洗礼式の準備をしている。

第2曲〈踊りの場〉(プロローグ第2曲)　王女の代母(ゴッドマザー)となる6人の妖精たちが登場する。妖精たちのひとりがリラの精。

第3曲〈パ・ド・シス〉(プロローグ第3曲)　妖精たちは、オーロラ姫のゆりかごのところへ

行き、気品、美しさ、優しさなど、それぞれの贈り物を贈る。バレエではこのあと、悪い妖精カラボスが、「オーロラ姫は16歳のときに紡錘(ぼうすい)で指を刺して死ぬ」と呪いをかけるが、リラの精が即座に「死ぬかわりに100年の眠りにつき、王子の接吻(せつぷん)で目覚める」と告げる場面が続く。

第4曲〈ワルツ〉（第1幕第6曲）　第1幕では、16歳のオーロラ姫が眠りにつくまでが描かれる。有名なワルツは、この幕の前半で村の若者たちによって踊られる曲だ。

第5曲〈パ・ダクシオン〉（第2幕第15曲a〈オーロラ姫とデザイア王子の情景〉）

第6曲〈オーロラ姫のヴァリアシオン〉（第2幕第15曲b）　第2幕はオーロラ姫が眠りについてから100年後の世界。彼女のことをリラの精から聞き、その幻影を見たデザイア王子は、彼女を救うことを決意する。

第7曲〈パノラマ〉（第2幕第17曲）　リラの精は、真珠貝の小舟に乗って、今は深い森になってしまったフロレスタン14世の宮殿へと王子を導く。

第8曲〈アダージョ〉（第3幕第25曲〈パ・ド・カトル〉）　第3幕は、オーロラ姫とデザイア王子の華やかな結婚式で、童話の主人公たちなどがお祝いに訪れて、踊りを披露する。なお、この曲はもともと、シンデレラ姫とフォルチュネ王子、青い鳥とフロリーヌ姫による4人の踊りだったが、初演時には青い鳥とフロリーヌ姫だけの踊りに変更された。現在でもそれが踏襲されることが多い。

第9曲〈テンポ・ディ・マズルカ〉（第3幕第30曲〈終曲〉）　結婚式の最後に踊られる力強いマズルカ舞曲。バレエでは、このあと〈アポテオーズ〉があって、バレエ全曲の幕が閉じられるのだが、フェドセーエフのセレクションではあと3曲演奏される。

第10曲〈サラバンド〉（第3幕第29曲）　ゆったりした3拍子の舞曲。結婚式の列席者たちが踊る舞曲のひとつで、バレエではマズルカの直前に置かれている。

第11曲〈銀の妖精〉（第3幕第23曲〈ヴァリアシオンII〉）　第23曲は、金、銀、サファイア、ダイヤモンドの精が踊るパ・ド・カトル。銀の精の踊りは軽快なポルカとなっている。

第12曲〈オーロラ姫とデザイア王子のアダージョ〉（第1幕第8曲a〈パ・ダクシオン：アダージョ〉）　第1幕第8曲の〈パ・ダクシオン〉は4つの部分からなる。最初の〈アダージョ〉は、16歳のオーロラ姫に求婚する4人の王子たちがバラを贈る場面で、「バラのアダージョ」として知られる。

作曲年代	1888年10月～1889年8月
初演	［原曲］1890年1月15日（ロシア旧暦3日）、サンクトペテルブルク、マリインスキー劇場、リッカルド・ドリゴ指揮、マリウス・プティパ振付
楽器編成	フルート2、ピッコロ1、オーボエ2、イングリッシュ・ホルン1、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、コルネット2、トロンボーン3、テューバ1、ティンパニ1、大太鼓、シンバル、小太鼓、トライアングル、タンブリン、グロッケンシュピール、ハープ1、ピアノ1、弦楽

優雅で美しいメロディ

ピョートル・イリイチ・チャイコフスキー

Peter Ilich Tchaikovsky (1840–1893)

バレエの演目でもっとも有名なのは《白鳥の湖》だろう。《眠りの森の美女》《くるみ割り人形》とあわせて「三大バレエ」とも言われる。チャイコフスキーが残した3作のバレエ音楽すべてが、重要なレパートリーとしていまも愛され続けている。それほどまでにバレエ音楽に貢献しながら、オペラや交響曲、協奏曲など、他ジャンルにも数えきれない名曲を生んだ作曲家の美しいメロディに、あらためてじっくりと耳を傾けてほしい。

A 2023, NOVEMBER
［第1997回］

聴くバレエ

チャイコフスキーは友人に宛てて「バレエは交響曲と同じ」と書いている。当時は踊りの伴奏用音楽として気軽に継ぎはぎされていたバレエ音楽を、交響曲と同様の書法で作曲し、ドラマティックに音楽を作り込んでいった。その甲斐(かい)あってか、今日では、バレエを離れた演奏会用の演目としてもすっかり定着している。本日の演奏会もしかり。

眠りの森のチャイコフスキー!?
物語のモデルとなったユッセ城を背景に
イラストレーション：©IKE

PROGRAM

B

第1996回

サントリーホール

11/15 水 7:00pm
11/16 木 7:00pm

指揮	ユッカ・ペッカ・サラステ
ヴァイオリン	ペッカ・クーシスト
コンサートマスター	郷古 廉

シベリウス
交響詩「タピオラ」作品112［19′］

ストラヴィンスキー
ヴァイオリン協奏曲 ニ調［22′］

Ⅰ トッカータ
Ⅱ アリアⅠ
Ⅲ アリアⅡ
Ⅳ カプリッチョ

――**休憩（20分）**――

シベリウス
交響曲 第1番 ホ短調 作品39［38′］

Ⅰ アンダンテ、マ・ノン・トロッポ
　―アレグロ・エネルジコ
Ⅱ アンダンテ（マ・ノン・トロッポ・レント）
Ⅲ スケルツォ：アレグロ
Ⅳ 終曲（幻想曲風に）：
　アンダンテ―アレグロ・モルト

※演奏時間は目安です。

インターネットアンケートにご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。みなさまの貴重なご意見を参考にさせていただきたく、ぜひお声をお寄せください。ご協力お願いいたします。

詳しくは51ページをご覧ください

こちらのQRから
アンケートページへアクセスできます

https://www.nhkso.or.jp/enquete.html

ユッカ・ペッカ・サラステ（指揮）

©Felix Broede

サラステはフィンランドのヘイノラ生まれ、まずヴァイオリニストとして活動したあと、ヘルシンキのシベリウス・アカデミーでヨルマ・パヌラに師事して指揮に転向、現在は世界的に活躍している。後期ロマン派や同時代の音楽を得意としており、リームやチェルハ、デュサパンらの作品を初演しているほか、1983年にはサロネンらとともに現代音楽を専門とする「アヴァンティ!」室内管弦楽団を立ち上げた。サラステはこれまで、スコットランド室内管弦楽団、フィンランド放送交響楽団、トロント交響楽団、オスロ・フィルハーモニー管弦楽団、そしてケルンWDR交響楽団の首席指揮者や音楽監督などを歴任している。2023年夏にはヘルシンキ・フィルハーモニー管弦楽団の首席指揮者兼芸術監督に就任した。また、フィンランド室内管弦楽団および同団を中心とするタンミサーリ音楽祭の創設者でもある。近年は、彼が創設者のひとりである若い音楽家のための教育プログラム、「LEAD! ジ・オーケストラ・プロジェクト」の活動にも力を入れている。なお今回の来演では、サラステが2020年6月にNHK交響楽団定期公演Cプログラムで指揮するはずだった曲目のうち、クーシストとのストラヴィンスキー《ヴァイオリン協奏曲》、それにシベリウス《交響曲第1番》があらためて演奏されることになっており、期待が高まる。

［増田良介／音楽評論家］

ペッカ・クーシスト（ヴァイオリン）

©Maija Tammi

バッハから現代作品、さらにジャズ、民俗音楽まで、驚異的なレパートリーを誇る。しかもそれらを表情豊かに弾く。

近年もシカゴ交響楽団やスウェーデン放送交響楽団、東京都交響楽団と共演。フィルハーモニア管弦楽団の「フィーチャード・アーティスト」にも迎えられた。ソロやリーダーを兼ねた指揮活動にも情熱を注ぎ、2023/24年のシーズンからヘルシンキ・フィルハーモニー管弦楽団の首席客演指揮者兼芸術共同監督に就任。

祖父も父も作曲家という音楽一家の出身。2022年に48歳で亡くなった兄ヤーッコも優れたヴァイオリニストだった。1976年生まれのペッカ・クーシストは、ヘルシンキのシベリウス音楽院および米インディアナ大学で学び、1995年、フィンランド人として初めてシベリウス国際ヴァイオリン・コンクールに優勝した。凛とした響きも舞うストラヴィンスキーの協奏曲は十八番（おはこ）で、サントゥ・マティアス・ロウヴァリ指揮のフィルハーモニア管弦楽団の演奏会でも披露した。NHK交響楽団とは初共演。

［奥田佳道／音楽評論家］

ジャン・シベリウス（1865〜1957）はフィンランドのハメーンリンナ、イーゴリ・ストラヴィンスキー（1882〜1971）はロシアのロモノソフ生まれ。両地は国境線を挟んで僅か300kmほど（東京―名古屋間くらい）の距離。2人とも新婚旅行でカレリアを訪れ、作曲家としては稀（まれ）にみる天寿を全うした。意外な共通点を持つ両者だが、激動の時代を潜（くぐ）り抜けた彼らの作風は、あまりにも違う。両巨匠の傑作を通して、20世紀前半の近過去を改めて振り返ってみたい。

シベリウス

交響詩「タピオラ」作品112

それは大きく広がり立つ、北国の暗い森
古代の神秘的で不気味な野生は夢を見る
そこに力強い森の神が住み
仄（ほの）暗い中、木の妖精たちが魔法の呪文を唱える夢を

1926年初頭、60歳を迎えたシベリウスはニューヨーク交響楽団の指揮者ワルター・ダムロッシュ（1862〜1950）から新作交響詩の作曲依頼を受ける。同年12月26日、ダムロッシュの指揮によりニューヨークで初演されたその曲が、シベリウス最後の大作《交響詩「タピオラ」》である。

タピオラとはフィンランド語で「森の神が住むところ」という意味。出版社のブライトコプフ・ウント・ヘルテルの依頼で、シベリウスは楽譜の冒頭に自ら作成した4行詩を掲載している（本文冒頭を参照）。この詩はシベリウスのインスピレーションの在り処（か）を示唆すると共に、曲を鑑賞する上で参考になるだろう。ただし、作曲者が詩の印象を奏でたり、音楽が詩の内容を描写したりしている訳ではない。《タピオラ》はいわゆる標題音楽というよりむしろ、核となる楽想が自律的に成長、発展しながら全体を形成していく絶対音楽の論理に従っているのである。その独創的な構成と優れた筆致は、晩年のシベリウスが到達した孤高の境地を示している。

曲はティンパニの連打に誘われて力強く現れる冒頭の主題を中心に成長、発展していく。のちに登場するほとんどの楽想は、この主題から派生したものである。音楽学者エルッキ・サルメンハーラは、《タピオラ》の形式プロセスを冒頭の主題による一種の「変奏曲」と見ている。それは楽曲全体がこの主題を軸にしながら、緻密なネットワークを構築しているからである。冒頭の主題が登場したあと、太古の悠久なる時間の流れを思わせるかのように、シベリウスは何度もその主題を反復させる。やがて曲は徐々にテンポを

上げ、スケルツォ的な部分、展開部、再現部、クライマックス、コーダという風に、自由で幻想的ながらも有機的に全体が組み立てられていく。最後は、永遠の静寂の中に清らかな余韻を残しながら幕を閉じる。

作曲年代	1926年
初演	1926年12月26日、ニューヨーク、ワルター・ダムロッシュ指揮、ニューヨーク交響楽団（New York Symphony Orchestra。この楽団の前身、ニューヨーク交響楽協会は初演者ワルターの父レオポルド・ダムロッシュによって創設され、1903年、ニューヨーク交響楽団に改称。1928年、ニューヨークのもう一方の楽団、フィルハーモニー・ソサエティ・オブ・ニューヨークに吸収された。吸収・合併されたこのソサエティがニューヨーク・フィルハーモニー交響楽団に改称。のちにニューヨーク・フィルハーモニックとなって現在に到る）
楽器編成	フルート3（ピッコロ1）、オーボエ2、イングリッシュ・ホルン1、クラリネット2、バス・クラリネット1、ファゴット2、コントラファゴット1、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、ティンパニ1、弦楽

ストラヴィンスキー

ヴァイオリン協奏曲 ニ調

ストラヴィンスキーが創作した唯一のヴァイオリン協奏曲。ポーランド系アメリカ人ヴァイオリニスト、サミュエル・ドゥシュキン（1891～1976）の依頼で、1931年初頭に着手された。ストラヴィンスキーは当初、独奏ヴァイオリンの演奏法にあまり自信が持てず、作曲そのものに躊躇（ちゅうちょ）したらしい。しかし、作曲家ヒンデミットの「楽器への先入観を持たないことは、かえって新しい可能性の発見につながるのではないでしょうか」という言葉に励まされ、創作に勤（いそ）しんだ。

協奏曲の冒頭、独奏ヴァイオリンが重音で提示する短い不協和音は、ストラヴィンスキーによると「協奏曲へのパスポート」だという。各楽章の最初に現われ、曲の導入を担うこの強烈な和音は、ある日ストラヴィンスキーがドゥシュキンとパリのレストランでランチを楽しんでいた時、ふと思いついたものである。3つの音からなるその和音は音程が非常に幅広く、ヴァイオリンでは演奏不可能に見えた。ところがその後、ドゥシュキンが帰宅してためしに和音を弾いてみたところ、技術的に問題なく奏することができた。その知らせを受けたストラヴィンスキーは、協奏曲への創作意欲を一気にかき立てられたといわれる。

ストラヴィンスキーが唱えた「バッハに帰れ」というスローガンは、20世紀前半の音楽潮流を先導していく重要な理念のひとつになった。この《ヴァイオリン協奏曲》も、各楽章にバロック音楽風の副題が付されている。だがその内実は、紛れもなくストラヴィンスキー独自の感性に貫かれた「20世紀の協奏曲」なのである。輝かしいニ長調を基調とする〈**トッカータ**〉は、ユーモアに満ちたエネルギッシュな楽章。ニ短調の〈**アリアI**〉は、幅広い跳躍を含む独奏ヴァイオリンのうねるような旋律が印象的。嬰ヘ短調の〈**アリア**

Ⅱ〉は、重々しいサラバンド風の雰囲気。華やかなニ長調に回帰する〈**カプリッチョ**〉は、一転してジャズ風の軽快な曲調。

作曲年代	1931年
初演	1931年10月23日、ドゥシュキンの独奏、作曲家自身の指揮、ベルリン放送交響楽団
楽器編成	フルート2、ピッコロ1、オーボエ2、イングリッシュ・ホルン1、クラリネット2、Esクラリネット1、ファゴット3（コントラファゴット1）、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、テューバ1、ティンパニ1、大太鼓、弦楽、ヴァイオリン・ソロ

シベリウス

交響曲 第1番 ホ短調 作品39

1899年に初演された《交響曲第1番》は、シンフォニックな絶対音楽の領域で独自の表現世界を切り開こうとしたシベリウスの出発点となった作品である。この交響曲はチャイコフスキーやボロディンの影響が指摘されることもあるが、幻想的でラプソディックな構成の内に堅固な論理の糸を張り巡らせるなど、すでにシベリウスの個性は十分に発揮されている。ちなみにシベリウス最晩年の言葉によると、「柔軟で感傷的なチャイコフスキーの音楽に対して、自分の交響曲は『硬質』である」という。

《第1番》の初演は大成功を収めたものの、その後シベリウスは曲に修正の手を加えることにした。理由のひとつとして、1900年夏に挙行されたヘルシンキ・フィルハーモニー管弦楽団のパリ万博遠征公演を指摘する者もいる。同公演のメイン・プログラムに《第1番》が選ばれたため、急いで手直しされたのではないか、という見方である。しかし、シベリウスが曲の改訂について同公演と関連付けて語ったことは一度もない。

残念ながら初稿のスコアが紛失してしまったため、《第1番》の改訂の詳細については不明だが、修正によって第1楽章が拡大された一方、第2と第3楽章は逆に短縮されたことが分かっている。またオーケストレーションも見直され、初稿では控え目だったハープの積極的使用が注目される。さらにタンブリンとカスタネットが取り除かれた代わりに大太鼓が加わったことで、全体的に響きが力強く引き締まったとみてよいだろう。かくして1900年夏、《第1番》の改訂稿（現行版）は《交響詩「フィンランディア」》とともにスウェーデンやドイツ、オランダ、フランスなどヨーロッパ各地で演奏され、シベリウスの国際的評価の確立に大きく寄与することになった。

第1楽章は、アンダンテ、マ・ノン・トロッポの序奏部とアレグロ・エネルジコの主部からなるソナタ形式。序奏部で静かに登場するクラリネット・ソロの寂寞（せきばく）とした旋律の内に、交響曲全体の基本楽想が織り込まれている。**第2楽章**は叙情的な緩徐楽章。曲の後半における素材の巧妙な展開処理、劇的なクライマックスの構築がシベリウスらしい設計。**第3楽章**は、ソナタ形式の発想が取り入れられたスケルツォ。「幻想曲風に」という曲

想記号が付された**第4楽章**では、まず序奏部で第1楽章冒頭の旋律が力強く回帰したあと、あわただしい動きを伴う楽想と長大な旋律が交互に現れる。やがて曲は終盤に向けて大きなうねりを形成し、焦燥感と悲壮感を漂わせながら劇的に高揚していく。最後は第1楽章と同様、孤独な世界へと消え入るように、2つのピチカートで静かに幕を閉じる。

作曲年代	1898年春から1899年初頭　［現行版］1900年2月、または3月から6月にかけて
初演	［初稿］1899年4月26日、作曲家自身の指揮、ヘルシンキ・フィルハーモニー管弦楽団
	［現行版］1900年7月1日、ロベルト・カヤヌス指揮、ヘルシンキ・フィルハーモニー管弦楽団
楽器編成	フルート2（ピッコロ2）、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、テューバ1、ティンパニ1、シンバル、大太鼓、トライアングル、ハープ1、弦楽

ストラヴィンスキーは、つねに時代の最先端にいて、時代の空気感を音楽に反映した作曲家だ。時代とともに、その作曲スタイルをどんどん変えていったことで「カメレオン作曲家」などとも呼ばれる。20世紀前半、ストラヴィンスキーらが中心となって「バッハに帰れ」というスローガンとともに作られた作品は、新古典主義音楽として時代をリードした。本日演奏される《ヴァイオリン協奏曲 ニ調》もその時期につくられた作品のひとつ。

カメレオン作曲家

イーゴリ・ストラヴィンスキー

Igor Stravinsky (1882–1971)

B
2023
NOVEMBER
［第1996回］

新古典主義

ファッションの流行は何年周期かでくり返される、などと言われることもあるが、この「新古典主義」にも、似た印象を受けないだろうか。「バッハに帰れ」というスローガンのもと、たしかにバッハ風だったり、古い舞曲風だったりといった素材で音楽がつくられているが、やっぱりそこは新古典主義、流行最先端の「20世紀の音楽」なのである。

《ヴァイオリン協奏曲》を作曲するきっかけとなったヴァイオリニストのドゥシュキンとデュオを組み演奏するストラヴィンスキー
イラストレーション：©IKE

PROGRAM

C

第1995回

NHKホール

11/10 金 7:30pm

11/11 土 2:00pm

指揮	ゲルゲイ・マダラシュ
ピアノ	阪田知樹★
ツィンバロン	斉藤 浩□
コンサートマスター	郷古 廉

［開演前の室内楽（Cプログラム限定）］
10日（金）6:45pm～／11日（土）1:15pm～
ヴァイオリン：郷古 廉　チェロ：宮坂拡志
ヴェレシュ／ヴァイオリンとチェロのためのソナチネ―第3楽章
コダーイ／ヴァイオリンとチェロのための二重奏曲 作品7―第1楽章
※演奏はご自身の座席でお楽しみください。
※演奏中の客席への出入りは自由です。

バルトーク
ハンガリーの風景［11′］
Ⅰ セーケイ人のところでの夕べ
Ⅱ 熊踊り
Ⅲ 旋律
Ⅳ ほろよい気分
Ⅴ 豚飼いの踊り

リスト
ハンガリー幻想曲★［15′］

コダーイ
組曲「ハーリ・ヤーノシュ」□［25′］
Ⅰ 前奏曲：おとぎ話は始まる
Ⅱ ウィーンの音楽時計
Ⅲ 歌
Ⅳ 戦争とナポレオンの敗北
Ⅴ 間奏曲
Ⅵ 皇帝と廷臣たちの入場

※ この公演に休憩はございません。あらかじめご了承ください。
※ 演奏時間は目安です。

インターネットアンケートにご協力ください
N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。みなさまの貴重なご意見を参考にさせていただきたく、ぜひお声をお寄せください。ご協力お願いいたします。

詳しくは51ページをご覧ください

こちらのQRから
アンケートページへアクセスできます
https://www.nhkso.or.jp/enquete.html

ゲルゲイ・マダラシュ（指揮）

©Benjamin Ealovega

ゲルゲイ・マダラシュは1984年、ブダペスト出身の指揮者。2019年9月よりベルギー王立リエージュ・フィルハーモニー管弦楽団音楽監督を務めている。これまでにフランスのディジョン・ブルゴーニュ管弦楽団音楽監督、ハンガリーのサヴァリア交響楽団首席指揮者を歴任。また、BBC交響楽団、BBCフィルハーモニック、フランス放送フィルハーモニー管弦楽団、リヨン国立管弦楽団、ミラノ・スカラ座フィルハーモニー管弦楽団他の著名オーケストラに客演している。

5歳よりハンガリー・ロマ民族の正統的な楽師や農民音楽家に学び、その後、クラシックのフルート、ヴァイオリン、作曲を学んでいる。ブダペストのリスト音楽院フルート科およびウィーン国立音楽大学指揮科を卒業。11歳でゲオルク・ショルティが指揮するブダペスト祝祭管弦楽団のリハーサルに立ち会い、指揮の魔術に触れたことをきっかけに、将来は指揮者になると決心したという。

古典派からロマン派の作品をレパートリーの中心とする一方、ジョージ・ベンジャミンやペーテル・エトヴェシュらの現代の作曲家とも協働する。また、オランダ国立オペラやジュネーヴ大劇場でオペラ指揮者としても実績を積んでいる。

今回は母国ハンガリーの音楽をとりあげる。幼少時より土地に根差した音楽に触れてきたマダラシュの本領が発揮されることだろう。N響とは今回が初共演。

阪田知樹（ピアノ）

©Hideki Namai

2016年フランツ・リスト国際ピアノ・コンクールで第1位、2021年エリーザベト王妃国際音楽コンクールで第4位を獲得するなど、輝かしいコンクール歴を誇るピアニスト。日本の若い世代を代表するひとりとして意欲的な活動を続けている。

東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校および同大学を経て、ハノーファー音楽演劇大学にて学士、修士を首席で修了し、現在同大学院ソリスト課程に在籍。世界的ピアニストを輩出するコモ湖国際ピアノアカデミーの最年少生徒として認められて以来、イタリアでも研鑽を積んでいる。パウル・バドゥラ・スコダに10年にわたり師事。また、作曲を永冨正之、松本日之春に師事した。2017年横浜文化賞文化・芸術奨励賞、2023年第32回出光音楽賞を受賞。

リスト、ショパンらのロマン派のレパートリーを軸に置き、知られざる作品の発掘にも力を注ぐなど、知性派のヴィルトゥオーゾとして定評がある。得意のリストで鮮やかな技巧を披露してくれることだろう。N響とは2021年4月公演で初共演し、今回が2度目の共演となる。

［飯尾洋一／音楽ジャーナリスト］

「ふるさとは遠きにありて思ふもの」。室生犀星（さいせい）のうたうように、故郷は、いつもどこか想像力によって補われ、色付けられている。本日取り上げる3人の作曲家はいずれもハンガリーの出身。どの曲も彼らの故郷にかかわるものだが、それらがたんなる異国情緒をこえて、「なつかしさ」の印象を与えるとすれば、それは作り手の「色付け」が、ある種の普遍性に到達していることの証（あかし）だろう。今日はどの曲の、どの部分に「なつかしさ」をおぼえるのか。さまざまな場所に思いをはせつつ、楽しみたいプログラムである。

バルトーク

ハンガリーの風景

1930年代初頭、世界大恐慌はヨーロッパに波及し、人々の生活を圧迫しつつあった。民謡研究の著書を出版する計画が頓挫するなど、ベーラ・バルトーク（1881～1945）もさまざまなかたちで、この不況の影響を受けることとなる。この時期の彼がピアノのために作曲した旧作をつぎつぎに管弦楽用に編曲していることの背景にも、おそらくこうした経済的な事情があったと考えられる。思うように民謡研究や創作活動を進めていくためにも、少しでも多くの金銭的余裕が、彼には必要だったのだ。

その点、《ハンガリーの風景》は「時宜を得た仕事」だった。収録された曲のなかにはピアニストとしてバルトークがたびたび演奏してきたものが多く、原曲の人気からも、最初から彼はある程度の成功を見込めただろう。もちろん、原曲を移調したり、新しい声部を付け足したりするなど、そこにはさまざまな工夫も見られる。民謡編曲とオリジナル曲とを区別せず、さまざまな曲集から素材を集め、ひとつながりの組曲にしたことも大きい。語法には多様性があり、楽器の扱いも職人芸的。結果的にこの作品は、親しみやすい、バルトークの音楽の入門編とも言ってよい内容に仕上がっている。

第1曲〈セーケイ人のところでの夕べ〉 原曲は《10のやさしい小品》（1908年）第5曲。レント部分（A）とアレグレット部分（B）の交代からなる（ABABA）。2つの主題は自作のものだが、いずれもハンガリー民謡の様式をふまえている。**第2曲〈熊踊り〉** 原曲は《10のやさしい小品》第10曲。熊使いの見せ物から着想を得た音楽である。**第3曲〈旋律〉** 原曲は《4つの挽歌（ばんか）》（1909～1910年頃）第2曲。主題は自作のもの。終盤ではフランス近代音楽を連想させる、色彩的な響きを聴くことができる。**第4曲〈ほろよい気分〉** 原曲は《3つのブルレスク》（1908～1911年頃）第2曲。ユーモラスかつグロテスクな響きはバレエ《木彫りの王子》を思い起こさせる。**第5曲〈豚飼いの踊り〉** 原曲は《子供のために》（1908～1910年）第1部第40曲（初版第2巻第42曲）。彼自身が実際に採集した笛の旋律をもとにしている。

作曲年代	1931年8月
初演	[第1〜3曲、および第5曲]1932年1月25日、ブダペスト、マッシモ・フレッチャ指揮、コンサート管弦楽団
	[全曲]1934年11月26日、ブダペスト、ハインリヒ・ラーバー指揮、フィルハーモニー協会管弦楽団
楽器編成	フルート2(ピッコロ1)、オーボエ2、クラリネット2(バス・クラリネット1)、ファゴット2(コントラファゴット1)、ホルン2、トランペット2、トロンボーン2、テューバ1、ティンパニ、大太鼓、シンバル、サスペンデッド・シンバル、トライアングル、シロフォン、小太鼓、ハープ、弦楽

リスト

ハンガリー幻想曲

フランツ・リスト(1811〜1886)は少年時代の1822年、ウィーンで音楽を学ぶためにハンガリーを離れた。ヴィルトゥオーソ(名人)として名をなした彼が故郷に凱旋(がいせん)したのは1839年12月のこと。このとき彼は2か月にわたる大演奏旅行を行い、ペスト(現在のブダペスト)やジェールなど、ハンガリーの諸都市で演奏した。当時の演奏会で即興演奏が好まれたことはよく知られる通り。旋律の素材としては、旅行先の民謡がよく使われたというが、リストもこの演奏旅行をきっかけに、自国の旋律を演奏会でよく取り上げるようになったようだ。「ジプシー音楽」を研究し始めた彼は、その後も折にふれてロマの楽師達の演奏を聴き、その演奏スタイルを注意深く学んだ。研究の成果はやがてピアノ曲集《ハンガリー狂詩曲集》(S244、1851〜1886年)において実を結ぶこととなるだろう。

ピアノ独奏と管弦楽のための《ハンガリー幻想曲》はピアノ曲《ハンガリー狂詩曲第14番》(S244/14、1853年)の姉妹作である。両者はともにピアノ曲《ハンガリーの歌、ハンガリー狂詩曲第21番》(S242/21、1839〜1847年)を下敷きにしているが、ジャンルの違いを反映して、互いに異なる方向性を示している。端的に言えば、ピアノの長いカデンツァ(即興的な独奏)があちこちに挿入される《ハンガリー幻想曲》の方が構成が込み入っており、その分だけ、より華やかで祝祭的な音楽になっている。

曲は大きく緩・急の2部からなる。冒頭は当時の流行歌《クロヅルは高く翔(と)ぶ》からの自由な引用。葬送行進曲風にはじまり、ピアノが華麗な独奏を披露したのち、同じ主題が本来の長調であらためて提示される。ピアノの独奏をはさみつつモデラートで第2主題、アレグレットで第3主題が続き、やがて冒頭主題が戻ってくる。独奏ピアノの長いカデンツァをはさんで後半はヴィヴァーチェ・アッサイの舞曲風の音楽。管弦楽とピアノでもう一度《クロヅルは高く翔ぶ》の主題を歌い上げたあと、曲は華やかに閉じられる。

作曲年代	1849年(初稿)、1853年(第2稿)
初演	1853年6月1日、ペスト(現在のブダペスト)の国民劇場、ハンス・フォン・ビューローのピアノ独奏、フェレンツ・エルケル指揮、国民劇場管弦楽団
楽器編成	フルート2、ピッコロ1、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン2、トランペット2、トロンボーン3、ティンパニ、大太鼓、シンバル、トライアングル、弦楽、ピアノ・ソロ

組曲「ハーリ・ヤーノシュ」

「民族の独自性を消し去った上での相互理解か、保った上での相互理解か。《ハーリ組曲》はどこでも理解してもらえる、純粋にハンガリー的なのにもかかわらず」。

ゾルターン・コダーイ（1882〜1967）の晩年の言葉だ。民族の文化アイデンティティを守り通すことで、はじめて国際的に通用する普遍性を獲得できる。まさにそのような確信があったからこそ、彼は一生をかけて音楽のハンガリー性を追い求めたのだろう。

そんな彼にとっての会心作が《組曲「ハーリ・ヤーノシュ」》である。原曲の歌芝居（1926年初演）は、主人公ハーリがナポレオン率いるフランス軍を打ち破り、オーストリアのマリー・ルイーズ王女に求愛されるものの、最後は恋人エルジェとともにハンガリーの故郷に帰る…… という内容。いわば、民衆のさまざまな願望をよせ集めた「ありえない」夢物語、法螺（ほら）話である。音楽の素材は古い様式の民謡から、ロマの楽師の奏でる「ヴェルブンコシュ」まで、ハンガリーの民衆音楽のさまざまな種類から取られている。伝統的な打弦楽器ツィンバロンも効果的に用いられており、ハンガリー育ちであれば、階層を問わず、どこかになじみのある旋律やリズムを見つけられる内容だ。その一方でラヴェルやバルトークを連想させるモダンな和声も盛り込まれているのだから、原曲が初演後、たちまち高い評価を得たのもうなずけよう。組曲は原曲の聴きどころをコンパクトにまとめた内容で、ハンガリー国外ではむしろこちらのバージョンが広く演奏される。

第1曲〈前奏曲：おとぎ話は始まる〉は歌芝居冒頭の音楽。短い序奏の後、民謡風の主題がさまざまな調で、多声的に絡みあいながら展開していく。**第2曲〈ウィーンの音楽時計〉**は華やかな帝都の情景を描いた音楽。**第3曲〈歌〉**はハーリとエルジェが歌う民謡《ティサ川の向こう、ドナウ川を越えて》をもとにしている。ツィンバロンの響きとともに、大平原の暮らしが描かれる。**第4曲〈戦争とナポレオンの敗北〉**はハーリの活躍を描いたもの。冒頭にトロンボーンが奏でる勇壮な主題が後半では、アルト・サクソフォーンによってグロテスクに、すすり泣くように変奏される。ナポレオンの敗北を描いているのだろう。**第5曲〈間奏曲〉**は付点リズムを多用した、ヴェルブンコシュ風の音楽である。**第6曲〈皇帝と廷臣たちの入場〉**では戦勝に沸くオーストリア宮廷の様子が描かれる。

作曲年代	1927年1〜3月
初演	1927年3月24日、バルセロナ・リセウ劇場にて、アンタル・フライシャー指揮、バルセロナ・パブロ・カザルス管弦楽団
楽器編成	フルート3（ピッコロ3）、オーボエ2、クラリネット2（Esクラリネット1）、アルト・サクソフォーン1、ファゴット2、ホルン4、トランペット3、コルネット3、トロンボーン3、テューバ1、ティンパニ1、小太鼓、大太鼓、シンバル、サスペンデッド・シンバル、トライアングル、タンブリン、タムタム、グロッケンシュピール、テューブラー・ベル、シロフォン、チェレスタ1、ピアノ1、ツィンバロン1、弦楽

録音技術が生まれる前の時代、音楽といえばライブ！ その花形は、なんといってもソリスト!! リストはそんな時代のスーパー・ピアニストとして各地で演奏会を開いていた。ピアノの演奏テクニックは超人的、自作の音楽は煌(きら)びやか、舞台に出てくるだけでオーラみなぎるリストのライブはいつも大盛り上がり。盛り上がりすぎて、失神する聴衆もいたとか。女性の視線を一身に浴びながら、客席の拍手に応えるリストはアイドルの先駆け?

C 2023, NOVEMBER
［第1995回］

スーパースターとはボクのこと！
フランツ・リスト
Franz Liszt (1811–1886)

ハンガリーの民族衣装を着て登場する
スーパースターのリストさま（フィクションです！）
イラストレーション：©IKE

リストとハンガリー

リストは自身のルーツであるハンガリーについて、とても誇りを持ち、思い入れも強かったという。残念ながらハンガリー語は話せなかったようだが、ハンガリーの音楽や民謡を研究し、自作にも多く取り入れている。自分が今いる環境だけでなく、ルーツや故郷に特別な思いを寄せるのは、古今東西、変わらない欲求なのかもしれない。

N響百年史

第四十一回 ― 近衛時代終焉前夜

片山杜秀 ― Morihide Katayama

二〇二六年のN響創立百周年に向け、NHK-FM「クラシックの迷宮」のパーソナリティとしてもお馴染みの思想史研究者で音楽評論家の片山杜秀さんが、時代背景とともにN響の歴史をひもときます。世界大恐慌の中、客足の減少を食い止めるべく、外国人スターを次々に招聘する新交響楽団。海外の舞台で活動したい近衛秀麿との間の溝はどんどん深まっていきます――

「まことに、せきりよう」な演奏会場

「創立当初僅(わず)か200名に満たなかった予約会員も、昭和6年頃には約800名にまで達した」。新交響楽団の頃からのティンパニ奏者であり、戦後のNHK交響楽団の時代にまで楽団員のリーダー格のひとりとして長く重きをなした小森宗太郎が、『フィルハーモニー』1956(昭和31)年第8号に寄せた回想文の一節である。こう続く。「世の中の不景気と取組んで来た新響は、6年のシーズン末には漸(ようや)く黒字に到(いた)るまで成長したとの会計報告が始めてされたので、楽員達の顔にも稍々(やや)喜びの笑みを綻(ほころ)ばした」。定期会員800人の成果である。

だが喜びは束の間であった。その時期、「楽員の刷新がはかられた為、退職金のマイナスからまた元の赤に逆戻りしてしまつた」。近衛秀麿(このえひでまろ)が欧米の一流オーケストラに負けぬ団体をめざして楽員の入れ替えを望んだことに発する大騒動、いわゆるコロナ事件を機に辞めていった、あるいは辞めさせられた楽団員にも、それなりの退職金が払われたとわかる。が、そのせいで楽団経営は再び困難に陥った。誰がそんな事態を招いたか、極端な振る舞いをして不和を引き起こしたのか――。近衛に対する楽団員の不信感は、とりあえず事件が解決したあとも内にひたひたと漲(みなぎ)らざるを得なかった。

小森の思い出からなお引く。「演奏会場を日比谷に移したのもこの時で、収容人員2600名のホールで、青年館より約1000名多く収容出来る会堂だが、昭和7年の9月日比谷に転じた時の予約会員数は僅かに900名に満たなかつたから、まことに、せきりようたるものだつた」

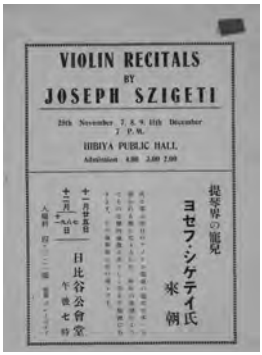
次々に来日する外国人スターたち

新交響楽団が神宮外苑の日本青年館から日比谷公園の日比谷公会堂に定期公演（当時は予約演奏会）の会場を移し、合わせて定期会員券の値下げもして、会員数の回復をはかったのは、前回にも触れたように、1932（昭和7）年の秋のシーズンの開幕、すなわち9月30日の第113回定期公演からであった。近衛が、ベートーヴェンの《交響曲第6番》に、十八番（おはこ）も十八番のリヒャルト・シュトラウスの《ドン・フアン》と《楽劇「サロメ」》からの〈7つのヴェールの踊り〉を振り、あいだには当時17歳のピアニスト、ウィーンで大巨匠のエミール・フォン・ザウアーに学んで帰ってきた井上園子をソリストに迎え、リストの《ピアノ協奏曲第1番》が演奏された。小森が「まことに、せきりよう（寂寥）」と振り返る時期だが、むろん「せきりよう」が長く続けば、いくら日本放送協会の援助も受けてラジオ番組出演料で稼（かせ）いでいても、さすがに追いつかない。オーケストラは潰（つぶ）れてしまう。実は、すぐに立て続けに打たれていったカンフル剤がけっこう利いたのである。有名外国人ソリストが定期公演にしきりに登場した。そのせいで、会員数がすぐにうなぎ上りにならずとも、一回券が売れた。

まず10月12日の第114回。エフレム・ジンバリストが登場した。ドン川流域ロストフの出のユダヤ人。サンクトペテルブルクでレオポルト・アウアーに学び、10代から欧米のひのき舞台に立ってきた大ヴァイオリニスト。関東大震災前に初来日し、SPレコードの録音も多く、洋楽愛好家なら知らぬ者なしというくらいのスター。1889年生まれだから当時40代前半。脂（あぶら）がのりきっている。そんな彼が、ニコライ・シフェルブラットの指揮で、モーツァルトの《ヴァイオリン協奏曲第5番》とグラズノフの《ヴァイオリン協奏曲》を奏でた。期待に応える名演奏。大評判になった。もちろん放送にも出た。ラジオ出演のときは日本放送交響楽団と名乗る新交響楽団と、ベートーヴェンの《ロマンス ト長調》を放送用・レコード用にスタジオ録音した。続く10月26日の第115回の独奏者は宮城道雄。外国人ではない。けれども邦楽界の圧倒的スターだ。門弟も多い。一回券がよくはける。宮城は近衛秀麿および弟の直麿（なおまろ）と共作した《越天楽（えてんらく）変奏曲》を独奏した。近衛直麿は新交響楽団でホルンを吹き、雅楽の楽曲の五線譜化に尽くしていた。弟の仕事あってこそ、秀麿は《越天楽》の西洋式交響楽用の編曲を成し得た。その直麿は1932（昭和7）年に早逝（そうせい）していた。この日の《越天楽変奏曲》は秀麿と新交響楽団による直麿の追善でもあった。宮城の出演のおかげで日比谷公会堂はよく埋まった。

11月に行く。9日の第116回では、ベンノ・モイセイヴィッチが、近衛と共演して、チャイコフスキーの《ピアノ協奏曲第1番》を披露した。彼は1890年に黒海に臨む商港オデッサで生まれたユダヤ人。チャイコフスキーとラフマニノフを得意とし、レコード界のスターでもあった。日頃、新交響楽団をなめてかかり、泰西の大演奏家のSP録音にしか興味がないとのたまい、日本人音楽家の記事のあまり出ないレコード音楽雑誌を読みたがるたぐいの好楽家も、日比谷に足を運ばざるを得ない。そして極め付きは12月11日の第118回だ。前年6月の第92回に続いて、1年半

第114回定期公演。シフェルブラットの指揮（中央）で演奏するジンバリスト（手前）。公演は大評判となった



第115回の定期公演パンフレットに掲載されたモイセイヴィッチ、シゲティの公演広告。この頃は、外国人のスター演奏家たちを大きく扱った来日公演の広告が、毎回の定期公演パンフレットを賑わせていた

ぶり。またもヨーゼフ・シゲティが登場した。彼は1892年生まれ。ヤッシャ・ハイフェッツやジンバリストのようにサンクトペテルブルクのアウアー教授の系統ではない。要するに弓遣いがきわめて機能的ないわゆる近代奏法ではない。ちょっと古い。そのぶん、少し武骨である。器用には聴こえないところがある。が、そこが、バッハからブラームスまでの、精神主義的というか、格調の高さをファンが求めがちなレパートリーにはまった。高い教養を求めてクラシック音楽を聴くファンほど、シゲティを崇(あが)める傾向がすでにあった。日本のファンにはそういう人がまた多かった。シゲティも、第92回での新交響楽団とベートーヴェンの協奏曲を共演したことを、よい思い出としていた。オーケストラも聴衆も真面目で一所懸命なところが日本らしさなのだという。“日本クラシック音楽道”とでも呼びたくなる種類の挿話だが、そんな具合だからシゲティの再登場は早めに実現した。第118回では近衛とブラームスの協奏曲をやった。定期公演だけではない。シゲティの人気は引きも切らず。前後の12月9日と12日にも特別演奏会としてシゲティをメインにしての協奏曲の夕べが催され、そこではベートーヴェンやバッハのコンチェルトが披露された。興行的にも大当たりをとった。「年末の《第9》」はまだこの国の演奏会の習慣にはない。1932(昭和7)年は「年末のシゲティ」であった。それで新交響楽団は年を越せた。

近衛体制の終わりの始まり

メインの会場を日比谷公会堂に移して入場者数を増やすことで、チケットの値下げや定期公演の回数削減のぶんを埋め、できうれば増収をめざしたいという戦略は、宮城道雄を例外として、レコード録音で名の知れ渡っている外来有名演奏家の連続招聘(しょうへい)と組み合わされていたわけだけれども、普通に考えればやはり不思議かもしれない。ジンバリストやモイセイヴィッチやシゲティの出演料は飛びぬけて高いだろう。経営が傾いて四苦八苦しているオーケストラにしては、やることが大胆すぎるのではあるまいか。一回券が出る当てがあったとしても、ひとつしくじれば大赤字になりかねない。危ない博奕(ばくち)ではないのか。

いや、そうでもなかった。1929(昭和4)年からの世界大恐慌に由来するデフレは、当然ながら世界的だった。新交響楽団もチケット代を値下げしたが、海外一流演奏家のギャランティも下がっていた。そのせいで彼らを日本に呼びやすくもなっていた。むろん、ここでもうひとつ説

明が必要になる。世界中がデフレで、日本も同様なら、日本が外来音楽家を呼びやすくなる理屈は立たぬではないか。そうではないところがあった。世界大恐慌に巻き込まれてデフレの谷に沈んでいった日本の、そこからの脱却は、欧米よりも早めであった。円も相対的に見ればやや強くなった。海外一流どころを買う余裕を日本は少し持ったのである。おかげで新交響楽団の定期公演の会場移転も、なんとか軌道に乗ったといってよい。

しかし、近衛秀麿はというと、日比谷公会堂に腰を落ち着けたいとはどうやら思っていない。日本のことはとりあえずシフェルブラットや山田耕筰に任せて、新交響楽団を率いる立場はあくまで保ち続けたまま、欧州長期楽旅に出かけたくて仕方ないのだ。明けて1933（昭和8）年。1月から夏休み前の6月まで、新交響楽団は8回の定期公演を行っているが、うち近衛が指揮したのは3回、シフェルブラットが振ったのが4回、もう1回は東京音楽学校（現東京藝術大学音楽学部）のヴァイオリンの教官だったローベルト・ポラックに任されている。近衛が年末年始に体調を崩したので出演が減ったと解釈できなくもない。でも病気にならなかったら、近衛はロンドンにBBC交響楽団を振りに行こうとしていたのだ。海外のスケジュールを優先する考え方がますます露骨になってくる。近衛とすれば30代半ばを迎え、指揮者として飛躍のしどき。逃せない時期だ。ゆえに欧米優先は当たり前である。日本で振っていても限界がある。今日の音楽家でさえそうなのだから、昭和の初めではなおさらだ。

とはいえ、オーケストラからすればたまらない。海外有名ソリストが来演しないと、すぐに「まことに、せきりよう」となってしまう日比谷公会堂で公演しているのだ。近衛の知名度、音楽的能力、創意工夫、人脈にますます頼りたくもなる。それなのに近衛本人はどこか不真面目である。海の向こうばかり観ている。だが、近衛に日本のことを振り向いてもらいすぎると、結局、メンバーの入れ替えの話になる。海外でうまいオーケストラを振れば振るほど、近衛は自ら育てた新交響楽団の技量に我慢がならなくなり、第二のコロナ事件が起きるに違いない。近衛は楽団運営についてかなり無理を通せる実権を持ってしまっている。技量最優秀とはみなされていない、多くの楽団員にとっては、近衛に日本にいてもらわなくては不安だけれど、いてもらっても恐怖なのである。

不安と恐怖のどちらがよいというものでもあるまい。不安からも恐怖からもまぬがれたいのが人情である。ということは、近衛と新交響楽団は離婚寸前になっていたのだ。それでも楽団員の中の親近衛派、つまり入れ替えられることは決してないだろう技量最優秀な人たちの重しがもう少し利いていれば、近衛政権はなお延命できたかもしれない。ところが技量最優秀クラスで近衛ときわめて親密だった楽団員の中から、近衛体制にとってのユダが登場する。チェロ奏者の齋藤（さいとう）秀雄がその人であろう。

文｜片山杜秀（かたやま もりひで）

思想史研究者、音楽評論家。慶應義塾大学法学部教授。2008年、『音盤考現学』『音盤博物誌』で吉田秀和賞、サントリー学芸賞を受賞。『クラシックの核心』『ゴジラと日の丸』『近代日本の右翼思想』『未完のファシズム』『見果てぬ日本』『尊皇攘夷』ほか著書多数。

次回予告　演奏会場を日比谷に移し、次々と海外から指揮者やソリストを迎えて定期公演を重ねる新交響楽団。近衛との関係はますます冷ややかなものとなり、ついに決裂へと向かいます。

2023年12月定期公演のプログラムについて

公演企画担当者から

ファビオ・ルイージが首席指揮者に就任して1年あまりが経過した。以前に比べ、マエストロがN響メンバーを信頼し、一緒に音楽を作ろうという姿勢が強まってきたように感じる。上昇気流に乗りつつある中で迎える第2000回定期。大きな節目として、末永く記憶に残る熱演を期待したい。

圧倒的音響空間に身を浸し《一千人の交響曲》の真価を知る

［Aプログラム］の**マーラー《一千人の交響曲》**は、ファン投票による選曲。名前通りの大編成を必要とするため、100年近い歴史を持つN響が演奏するのも、今回でようやく5回目である。戦後間もない山田和男（一雄）指揮の日本初演に続き、歴代のタイトル指揮者がここぞという時に取り上げてきた。マーラーへの思い入れの強さでは、ルイージも負けていない。彼の推薦する欧米のトップ歌手たちと、大人数の合唱団がNHKホールに集結する。

実演でしか真価が伝わらない曲があると思うが、この作品などその最たるものだろう。マーラー自身「これまでの交響曲は、すべてこの曲の序奏に過ぎない」と豪語したが、彼らしい猥雑さが影を潜め“崇高”一辺倒になっていることを、否定的にとらえる見方もなくはない。だが、圧倒的な音響空間に身を浸すことで、“宇宙の響き”を具現化しようとした作曲家の意図に、多少なりとも迫れるのではないか。生で聴くことを特にお勧めしたい交響曲である。

レーガーの傑作に“失われし古きヨーロッパ”への慨嘆を聴く

［Bプログラム］の**レーガー**は、生誕150年を迎えるドイツ後期ロマン派の作曲家。**《モーツァルトの主題による変奏曲とフーガ》**は、有名なピアノ・ソナタを主題とする。ブラームスの衣鉢を継ぎ、変奏曲を得意としたレーガーの真骨頂ともいえる作品だ。おなじみの優美な主題が、原形を留めないまでに分解され、耽美的な最後の変奏曲と壮麗なフーガに行き着く。まるで“古きよきヨーロッパ”への慨嘆と、旧世界へのノスタルジーが詰まっているかのようだ。記念イヤーにちなんで、ルイージが初挑戦する。

レーガーが引用した《ピアノ・ソナタ第11番》は「トルコ行進曲つき」の副題で親しまれるが、前半の2曲では、トルコ軍楽隊ゆかりの打楽器が活躍する。大太鼓やシンバルを用いた**ハイドン《交響曲第100番「軍隊」》**は、初演地ロンドンの聴衆に大いに喜ばれた。

一方リストは、トルコ軍楽隊の模倣楽器であったトライアングルを**《ピアノ協奏曲第1番》**で準主役に引き立てた。主題が巧みに変奏され、クライマックスに行き着く構造は、レーガーの作品にも共通する。リストを得意とし、《超絶技巧練習曲集》で華々しくデビューした人気ソリスト、**アリス・紗良・オット**が、久々にこの曲に挑む。

ルイージの巧みな指揮が「芸術家の夢想」を描く

リストの《ピアノ協奏曲第1番》を初演した指揮者は、意外にも彼と並ぶロマン派の寵児（ちょうじ）、**ベルリオーズ**であった。**[Cプログラム]**では、その代表作**《幻想交響曲》**を送る。鐘やオフィクレイド（今回はテューバで代用）のような特殊楽器、弦を弓の背で打つコル・レーニョのような特殊奏法を駆使し、「芸術家の夢想」が描かれる。美しい恋人からグロテスクな魔女へと変貌する“固定楽想”のアイデアは、フランクの“循環形式”などにも影響を与えた。

ルイージは今年5月にフランクの《交響曲》で名演を聴かせたが、テーマの変化を浮き彫りにしながら、全体をまとめ上げる巧みな指揮ぶりは、今回の演奏にも十分に生かされることだろう。

クリスマス・シーズンと言えば、グリム童話を原作とする**フンパーディンク**の**《ヘンゼルとグレーテル》**。ヨーロッパでは、季節定番の出し物になっている。魔女が出てくるところが、《幻想交響曲》との共通点である。ただし《前奏曲》に魔女の主題は現れない。ホルンの敬虔（けいけん）な祈りで始まり、魔女から解放された喜びの歌が高らかに歌われる。

［西川彰一／NHK交響楽団 芸術主幹］

A 12/16 土 6:00pm / 12/17 日 2:00pm
NHKホール

第2000回定期公演
マーラー／交響曲 第8番 変ホ長調「一千人の交響曲」
（ファン投票選出曲）
指揮：ファビオ・ルイージ
ソプラノ：ジャクリン・ワーグナー★　ソプラノ：ヴァレンティーナ・ファルカシュ
ソプラノ：三宅理恵　アルト：オレシア・ペトロヴァ　アルト：カトリオーナ・モリソン
テノール：ミヒャエル・シャーデ　バリトン：ルーク・ストリフ
バス：ダーヴィッド・シュテフェンス
合唱：新国立劇場合唱団　児童合唱：NHK東京児童合唱団
★当初発表の出演者から変更となりました

B 12/6 水 7:00pm / 12/7 木 7:00pm
サントリーホール

レーガー生誕150年
ハイドン／交響曲 第100番 ト長調 Hob. I-100「軍隊」
リスト／ピアノ協奏曲 第1番 変ホ長調
レーガー／モーツァルトの主題による変奏曲とフーガ 作品132
指揮：ファビオ・ルイージ　ピアノ：アリス・紗良・オット

©Yutaka Miyazaki (SEPT)

C 12/1 金 7:30pm / 12/2 土 2:00pm
NHKホール

フンパーディンク／歌劇「ヘンゼルとグレーテル」前奏曲
ベルリオーズ／幻想交響曲 作品14
指揮：ファビオ・ルイージ

©Yutaka Miyazaki (SEPT)

チケットのご案内（定期公演 2023年9月～2024年6月）

定期会員券

毎回同じ座席をご用意。1回券と比べて1公演あたり10～27%お得です！（割引率は公演や券種によって異なります）

発売開始日（10:00amからの受付）		
	年間会員券、シーズン会員券（Autumn）	販売終了
	シーズン会員券（Winter）	発売中
	シーズン会員券（Spring）	2024年2月7日［水］（定期会員先行）／2024年2月16日［金］（一般）

料金（税込）

券種		S	A	B	C	D	D（ユースチケット）
年間会員券（9回）	Aプログラム	¥69,300（¥7,700）	¥58,050（¥6,450）	¥45,090（¥5,010）	¥36,720（¥4,080）	¥28,800（¥3,200）	¥8,100（¥900）
	Bプログラム	¥74,970（¥8,330）	¥64,260（¥7,140）	¥51,255（¥5,695）	¥41,310（¥4,590）	¥33,660（¥3,740）	¥9,720（¥1,080）
	Cプログラム	¥57,780（¥6,420）	¥50,760（¥5,640）	¥40,500（¥4,500）	¥32,760（¥3,640）	¥25,020（¥2,780）	¥7,200（¥800）

券種		S	A	B	C	D	D（ユースチケット）
シーズン会員券（3回）	Aプログラム	¥24,360（¥8,120）	¥20,310（¥6,770）	¥15,870（¥5,290）	¥12,870（¥4,290）	¥10,140（¥3,380）	¥3,300（¥1,100）
	Cプログラム	¥20,340（¥6,780）	¥17,910（¥5,970）	¥14,250（¥4,750）	¥11,520（¥3,840）	¥8,790（¥2,930）	¥3,000（¥1,000）

（　）内は1公演あたりの単価

※今シーズンより定期会員券の料金を改定させていただきます。何卒ご了承のほどお願い申し上げます（A･Cプログラムのユースチケット定期会員券［D席］料金に変更はありません）。

1回券

公演ごとにチケットをお買い求めいただけます。料金は公演によって異なります。各公演の情報でご覧ください。

発売開始日（10:00amからの受付）		
	11･12･1･2月	発売中
	4･5･6月	2024年2月28日［水］（定期会員先行）／2024年3月3日［日］（一般）

※今シーズンより1回券の料金を改定させていただきます（E席、ユースチケットをのぞく）。何卒ご了承のほどお願い申し上げます。

※「WEB セレクト3+」の販売は前シーズンをもって終了いたしました。

ユースチケット

25歳以下の方へのお得なチケットです。1回券と定期会員券（D席）でご利用いただけます。1回券はすべての券種で一般料金から50%以上お得にお買い求めいただけます。料金は各公演の情報でご覧ください。

※ユースチケットはWEBチケットN響およびN響ガイドのみのお取り扱いとなります。

※初回ご利用時に年齢確認のための「ユース登録」が必要となります。詳しくはN響ホームページをご覧ください。

お申し込み

WEBチケットN響　https://nhkso.pia.jp

N響ガイド｜TEL 0570-02-9502
営業時間：10:00am～5:00pm
定休日：土･日･祝日

●主催公演開催日は曜日に関わらず10:00am～開演時刻まで営業
●発売初日の土･日･祝日は10:00am～3:00pmの営業
●電話受付のみの営業

※やむを得ない理由で出演者や曲目等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。公演中止の場合をのぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません。

Please follow us on

N響ニュースレター　最新情報をメールでお届けします。WEBチケットN響の「利用登録」からご登録ください。

2023–24定期公演プログラム

2023 12

A

第2000回
12/16 土 6:00pm
12/17 日 2:00pm
NHKホール

渋谷から鳴動する 大宇宙を震わす響き
第2000回定期公演
マーラー／交響曲 第8番 変ホ長調「一千人の交響曲」[ファン投票選出曲]
指揮:ファビオ・ルイージ　ソプラノ:ジャクリン・ワーグナー★、ヴァレンティーナ・ファルカシュ、三宅理恵
アルト:オレシア・ペトロヴァ、カトリオーナ・モリソン　テノール:ミヒャエル・シャーデ　バリトン:ルーク・ストリブ
バス:ダーヴィッド・シュテフェンス　合唱:新国立劇場合唱団　児童合唱:NHK東京児童合唱団
★当初発表の出演者から変更となりました。

一般	ユースチケット
S ¥12,000	S ¥6,000
A ¥10,000	A ¥5,000
B ¥8,000	B ¥4,000
C ¥6,500	C ¥3,200
D ¥5,000	D ¥2,500
E ¥3,300	E ¥1,600

B

第1999回
12/6 水 7:00pm
12/7 木 7:00pm
サントリーホール

レーガーの気品あふれる名作をルイージの指揮で聴く
レーガー生誕150年
ハイドン／交響曲 第100番 ト長調 Hob. I-100「軍隊」
リスト／ピアノ協奏曲 第1番 変ホ長調
レーガー／モーツァルトの主題による変奏曲とフーガ 作品132
指揮:ファビオ・ルイージ　ピアノ:アリス・紗良・オット

一般	ユースチケット
S ¥9,800	S ¥4,500
A ¥8,400	A ¥4,000
B ¥6,700	B ¥3,300
C ¥5,400	C ¥2,500
D ¥4,400	D ¥1,800

C

第1998回
12/1 金 7:30pm
12/2 土 2:00pm
NHKホール

目くるめく夢幻　荒れ狂う狂騒　ルイージの《幻想》
フンパーディンク／歌劇「ヘンゼルとグレーテル」前奏曲
ベルリオーズ／幻想交響曲 作品14
指揮:ファビオ・ルイージ

一般	ユースチケット
S ¥7,600	S ¥3,500
A ¥6,700	A ¥3,000
B ¥5,300	B ¥2,400
C ¥4,300	C ¥1,900
D ¥3,300	D ¥1,400
E ¥1,600	E ¥800

2024 01

A

第2001回
1/13 土 6:00pm
1/14 日 2:00pm
NHKホール

舞台音楽に通暁するソヒエフのフランス＆ロシア　バレエ音楽の精華
ビゼー(シチェドリン編)／バレエ音楽「カルメン組曲」
ラヴェル／組曲「マ・メール・ロワ」
ラヴェル／バレエ音楽「ラ・ヴァルス」
指揮:トゥガン・ソヒエフ

一般	ユースチケット
S ¥9,100	S ¥4,000
A ¥7,600	A ¥3,500
B ¥5,900	B ¥2,800
C ¥4,800	C ¥2,100
D ¥3,800	D ¥1,500
E ¥2,000	E ¥1,000

B

第2003回
1/24 水 7:00pm
1/25 木 7:00pm
サントリーホール

N響が誇るトップ奏者たちがモーツァルトで腕を振るう
モーツァルト／ヴァイオリンとヴィオラのための協奏交響曲 変ホ長調 K. 364
ベートーヴェン／交響曲 第3番 変ホ長調 作品55「英雄」
指揮:トゥガン・ソヒエフ　ヴァイオリン:郷古 廉(N響ゲスト・コンサートマスター)★
ヴィオラ:村上淳一郎(N響首席ヴィオラ奏者)　★当初発表の出演者から変更となりました。

一般	ユースチケット
S ¥9,800	S ¥4,500
A ¥8,400	A ¥4,000
B ¥6,700	B ¥3,300
C ¥5,400	C ¥2,500
D ¥4,400	D ¥1,800

C

第2002回
1/19 金 7:30pm
1/20 土 2:00pm
NHKホール

ソヒエフが切実に描く 恋人たちの悲劇
リャードフ／交響詩「キキモラ」作品63
プロコフィエフ(ソヒエフ編)／バレエ組曲「ロメオとジュリエット」
指揮:トゥガン・ソヒエフ

一般	ユースチケット
S ¥7,600	S ¥3,500
A ¥6,700	A ¥3,000
B ¥5,300	B ¥2,400
C ¥4,300	C ¥1,900
D ¥3,300	D ¥1,400
E ¥1,600	E ¥800

2024 02

A

第2004回
2/3 土 6:00pm
2/4 日 2:00pm
NHKホール

井上道義 最後のN響定期でショスタコーヴィチの問題作を問う
ヨハン・シュトラウスII世／ポルカ「クラップフェンの森で」作品336
ショスタコーヴィチ／舞台管弦楽のための組曲 第1番
—「行進曲」「リリック・ワルツ」「小さなポルカ」「ワルツ第2番」
ショスタコーヴィチ／交響曲 第13番 変ロ短調 作品113「バビ・ヤール」★
指揮:井上道義　バス:アレクセイ・ティホミーロフ★※
男声合唱:オルフェイ・ドレンガル男声合唱団★　※当初発表の出演者から変更となりました。

一般	ユースチケット
S ¥9,800	S ¥4,500
A ¥8,400	A ¥4,000
B ¥6,700	B ¥3,300
C ¥5,400	C ¥2,500
D ¥4,400	D ¥1,800
E ¥2,800	E ¥1,400

B

第2006回
2/14 水 7:00pm
2/15 木 7:00pm
サントリーホール

エラス・カサド 母国の名作を携え5年ぶりにN響定期登場
ラヴェル／スペイン狂詩曲
プロコフィエフ／ヴァイオリン協奏曲 第2番 ト短調 作品63
ファリャ／バレエ音楽「三角帽子」(全曲)★
指揮:パブロ・エラス・カサド
ヴァイオリン:アウグスティン・ハーデリヒ　ソプラノ:吉田珠代★

一般	ユースチケット
S ¥9,800	S ¥4,500
A ¥8,400	A ¥4,000
B ¥6,700	B ¥3,300
C ¥5,400	C ¥2,500
D ¥4,400	D ¥1,800

C

第2005回
2/9 金 7:30pm
2/10 土 2:00pm
NHKホール

情熱の人 大植英次 四半世紀を経て再びN響定期の舞台に
ワーグナー／ジークフリートの牧歌
R. シュトラウス／交響詩「英雄の生涯」作品40
指揮:大植英次

一般	ユースチケット
S ¥7,600	S ¥3,500
A ¥6,700	A ¥3,000
B ¥5,300	B ¥2,400
C ¥4,300	C ¥1,900
D ¥3,300	D ¥1,400
E ¥1,600	E ¥800

(料金はすべて税込)

A	**NHKホール** 土 開場5:00pm 開演6:00pm 日 開場1:00pm 開演2:00pm	
B	**サントリーホール** 水 開場6:20pm 開演7:00pm 木 開場6:20pm 開演7:00pm	
C	**NHKホール** 金 開場6:30pm 開演7:30pm 土 開場1:00pm 開演2:00pm	

2024 04

A — 第2007回
4/13 土 6:00pm
4/14 日 2:00pm
NHKホール

妥協なき巨匠　ヤノフスキと拓くブラームス《第1番》の新たな世界
シューベルト／交響曲 第4番 ハ短調 D. 417
ブラームス／交響曲 第1番 ハ短調 作品68
指揮：マレク・ヤノフスキ

	一般	ユースチケット
S	¥9,100	¥4,000
A	¥7,600	¥3,500
B	¥5,900	¥2,800
C	¥4,800	¥2,100
D	¥3,800	¥1,500
E	¥2,000	¥1,000

B — 第2009回
4/24 水 7:00pm
4/25 木 7:00pm
サントリーホール

巨匠が生涯をかけて探究する　シューマンの奥深き世界
シューマン／歌劇「ゲノヴェーヴァ」序曲
シューマン／チェロ協奏曲 イ短調 作品129
シューマン／交響曲 第2番 ハ長調 作品61
指揮：クリストフ・エッシェンバッハ
チェロ：キアン・ソルターニ

	一般	ユースチケット
S	¥9,800	¥4,500
A	¥8,400	¥4,000
B	¥6,700	¥3,300
C	¥5,400	¥2,500
D	¥4,400	¥1,800

C — 第2008回
4/19 金 7:30pm
4/20 土 2:00pm
NHKホール

巨匠エッシェンバッハ　満を持してブルックナーをN響で初披露
ブルックナー／交響曲 第7番 ホ長調
指揮：クリストフ・エッシェンバッハ

	一般	ユースチケット
S	¥7,600	¥3,500
A	¥6,700	¥3,000
B	¥5,300	¥2,400
C	¥4,300	¥1,900
D	¥3,300	¥1,400
E	¥1,600	¥800

2024 05

A — 第2010回
5/11 土 6:00pm
5/12 日 2:00pm
NHKホール

眼前に蘇る古今のローマの情景　そして人々の息遣い
パンフィリ／戦いを生きる［日本初演］
レスピーギ／交響詩「ローマの噴水」
レスピーギ／交響詩「ローマの松」
レスピーギ／交響詩「ローマの祭り」
指揮：ファビオ・ルイージ

	一般	ユースチケット
S	¥9,800	¥4,500
A	¥8,400	¥4,000
B	¥6,700	¥3,300
C	¥5,400	¥2,500
D	¥4,400	¥1,800
E	¥2,800	¥1,400

B — 第2012回
5/22 水 7:00pm
5/23 木 7:00pm
サントリーホール

デンマーク国立響のシェフ　ルイージがN響でニルセンを初披露
ブラームス／ピアノ協奏曲 第1番 ニ短調 作品15
ニルセン／交響曲 第2番 ロ短調 作品16「4つの気質」
指揮：ファビオ・ルイージ
ピアノ：ルドルフ・ブフビンダー

	一般	ユースチケット
S	¥9,800	¥4,500
A	¥8,400	¥4,000
B	¥6,700	¥3,300
C	¥5,400	¥2,500
D	¥4,400	¥1,800

C — 第2011回
5/17 金 7:30pm
5/18 土 2:00pm
NHKホール

ルイージ&N響のメンデルスゾーン第2弾　《夏の夜の夢》&《宗教改革》
メンデルスゾーン／「夏の夜の夢」の音楽
—「序曲」「夜想曲」「スケルツォ」「結婚行進曲」
メンデルスゾーン／交響曲 第5番 ニ短調 作品107「宗教改革」
指揮：ファビオ・ルイージ

	一般	ユースチケット
S	¥7,600	¥3,500
A	¥6,700	¥3,000
B	¥5,300	¥2,400
C	¥4,300	¥1,900
D	¥3,300	¥1,400
E	¥1,600	¥800

2024 06

A — 第2013回
6/8 土 6:00pm
6/9 日 2:00pm
NHKホール

盟友　原田と反田が誘う魅力あふれるスクリャービンの世界
スクリャービン／夢想 作品24
スクリャービン／ピアノ協奏曲 嬰ヘ短調 作品20
スクリャービン／交響曲 第2番 ハ短調 作品29
指揮：原田慶太楼
ピアノ：反田恭平

	一般	ユースチケット
S	¥9,100	¥4,000
A	¥7,600	¥3,500
B	¥5,900	¥2,800
C	¥4,800	¥2,100
D	¥3,800	¥1,500
E	¥2,000	¥1,000

B — 第2015回
6/19 水 7:00pm
6/20 木 7:00pm
サントリーホール

楽都ウィーンで生まれた古今の傑作を鈴木優人のタクトで聴く
ウェーベルン／パッサカリア 作品1
シェーンベルク／ヴァイオリン協奏曲 作品36
バッハ（ウェーベルン編）／リチェルカータ
シューベルト／交響曲 第5番 変ロ長調 D. 485
指揮：鈴木優人　ヴァイオリン：イザベル・ファウスト

	一般	ユースチケット
S	¥9,800	¥4,500
A	¥8,400	¥4,000
B	¥6,700	¥3,300
C	¥5,400	¥2,500
D	¥4,400	¥1,800

C — 第2014回
6/14 金 7:30pm
6/15 土 2:00pm
NHKホール

定期初登場 沖澤のどかと臨む　エスプリ溢れるフランス・プログラム
イベール／寄港地
ラヴェル／左手のためのピアノ協奏曲
ドビュッシー／夜想曲＊
指揮：沖澤のどか
ピアノ：デニス・コジュヒン　女声合唱：東京混声合唱団＊

	一般	ユースチケット
S	¥7,600	¥3,500
A	¥6,700	¥3,000
B	¥5,300	¥2,400
C	¥4,300	¥1,900
D	¥3,300	¥1,400
E	¥1,600	¥800

（料金はすべて税込）

※今後の状況によっては、出演者や曲目等が変更になる場合や、公演が中止となる場合があります。あらかじめご了承ください。

特別公演

12/22 金 7:00pm
12/23 土 2:00pm
12/24 日 2:00pm
12/26 火 7:00pm

ベートーヴェン「第9」演奏会

NHKホール

指揮:下野竜也　ソプラノ:中村恵理　メゾ・ソプラノ:脇園 彩　テノール:村上公太　バス:河野鉄平
合唱:新国立劇場合唱団
バーバー／弦楽のためのアダージョ
ベートーヴェン／交響曲 第9番 ニ短調 作品125「合唱つき」

料金（税込）：一般｜S席15,000円 A席12,000円 B席9,000円 C席6,500円 D席4,500円
ユースチケット（25歳以下）｜S席7,500円 A席6,000円 B席4,500円 C席3,250円 D席2,250円

チケット発売中
※定期会員は一般料金の10%割引（26日公演をのぞく）
※12月26日はNHK厚生文化事業団主催のチャリティーコンサートです。定期会員の先行発売、割引はありません。

主催:NHK・NHK交響楽団／NHK・NHK厚生文化事業団（26日公演のみ）
協賛:みずほ証券株式会社／はごろもフーズ株式会社／株式会社明電舎
お問い合わせ:N響ガイド TEL (0570) 02-9502／NHK厚生文化事業団 TEL (03) 3476-5955（26日公演のみ）

12/27 水 7:00pm｜かんぽ生命 presents N響第九 Special Concert

サントリーホール

指揮:下野竜也　オルガン:勝山雅世★　ソリスト・合唱はベートーヴェン「第9」演奏会と同じ
バッハ／18のライプチヒ・コラール―「装いせよ、おお、愛する魂よ」BWV654★
バーバー／弦楽のためのアダージョ
ベートーヴェン／交響曲 第9番 ニ短調 作品125「合唱つき」

料金（税込）：一般｜S席17,500円 A席14,500円 B席11,500円 C席8,000円
ユースチケット（25歳以下）｜S席8,750円 A席7,250円 B席5,750円 C席4,000円

チケット発売中
※定期会員は一般料金の10%割引

主催:NHK交響楽団　特別協賛:株式会社かんぽ生命保険
お問い合わせ:N響ガイド TEL (0570) 02-9502

お申し込み	WEBチケットN響	https://nhkso.pia.jp
	N響ガイド｜TEL 0570-02-9502 営業時間：10:00am～5:00pm 定休日：土・日・祝日	●主催公演開催日は曜日に関わらず10:00am～開演時刻まで営業 ●発売初日の土・日・祝日は10:00am～3:00pmの営業 ●電話受付のみの営業

※やむを得ない理由で出演者や曲目等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。公演中止の場合をのぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません。

各地の公演

11/20月 7:00pm｜NHK音楽祭2023

NHKホール

指揮:ウラディーミル・フェドセーエフ　児童合唱:東京少年少女合唱隊
チャイコフスキー／バレエ音楽「くるみ割り人形」作品71（全曲）

主催:NHK、NHKプロモーション　共催:NHK交響楽団
お問合せ:ハローダイヤル TEL (050) 5541-8600

12/9土 3:00pm

松戸市制施行80周年・森のホール21開館30周年記念事業
森のホール21クラシックスVol. 4 NHK交響楽団

森のホール21 大ホール

指揮:ファビオ・ルイージ　ピアノ:アリス・紗良・オット
ハイドン／交響曲 第100番 ト長調 Hob. I-100「軍隊」
リスト／ピアノ協奏曲 第1番 変ホ長調
レーガー／モーツァルトの主題による変奏曲とフーガ 作品132

主催:公益財団法人 松戸市文化振興財団
お問合せ:森のホール21チケットセンター TEL (047) 384-3331

1/27土 4:00pm｜NHK交響楽団演奏会 大阪公演

NHK大阪ホール

指揮:トゥガン・ソヒエフ　ヴァイオリン:郷古 廉（N響ゲスト・コンサートマスター）　ヴィオラ:村上淳一郎（N響首席ヴィオラ奏者）
モーツァルト／ヴァイオリンとヴィオラのための協奏交響曲 変ホ長調 K. 364
ベートーヴェン／交響曲 第3番 変ホ長調 作品55「英雄」

主催:NHK大阪放送局、NHK交響楽団
お問合せ:NHK大阪ホール NHKイベントガイド TEL (06) 6947-5000

2/18日 4:30pm｜NHK交響楽団特別公演　パブロ・エラス・カサド＆牛田智大

RaiBoC Hallレイボックホール（市民会館おおみや）大ホール

指揮:パブロ・エラス・カサド　ピアノ:牛田智大
ベートーヴェン／序曲「コリオラン」作品62
モーツァルト／ピアノ協奏曲 第24番 ハ短調 K. 491
ベートーヴェン／交響曲 第5番 ハ短調 作品67

主催:（公財）さいたま市文化振興事業団
お問合せ:RaiBoC Hallレイボックホール（市民会館おおみや） TEL (048) 641-6131

2/21㊌ 7:00pm｜2024都民芸術フェスティバル参加公演 オーケストラ・シリーズ No. 55

東京芸術劇場コンサートホール

指揮:沼尻竜典　チェロ:カミーユ・トマ
ドヴォルザーク／スラヴ舞曲 第1集―第1番 ハ長調 作品46-1
ドヴォルザーク／チェロ協奏曲 ロ短調 作品104
シューマン／交響曲 第1番 変ロ長調 作品38「春」

主催・お問合せ:(公社)日本演奏連盟　TEL (03) 3539-5131

2/22㊍ 7:00pm｜NHK交響楽団演奏会 松本公演

キッセイ文化ホール(長野県松本文化会館)

出演者・曲目は2月21日と同じ

主催:NHK長野放送局、NHK交響楽団
お問合せ:ハローダイヤル TEL (050) 5541-8600

2/24㊏ 3:00pm｜NHK交響楽団演奏会 新潟公演

新潟市民芸術文化会館　りゅーとぴあ

出演者・曲目は2月21日と同じ

主催:NHK新潟放送局、NHK交響楽団
お問合せ:ハローダイヤル TEL (050) 5541-8600

2/25㊐ 5:00pm｜NHK交響楽団金沢特別公演

金沢歌劇座

出演者・曲目は2月21日と同じ

主催:石川テレビ、北陸中日新聞、サンライズプロモーション東京
お問合せ:サンライズプロモーション東京 TEL (0570) 00-3337

3/1㊎ 7:00pm｜NHK交響楽団 パルテノン多摩演奏会

パルテノン多摩 大ホール

指揮、クラリネット*:アンドレアス・オッテンザマー
～オール・ブラームス・プログラム～
ブラームス／大学祝典序曲 作品80
ブラームス(ブートラック&オッテンザマー編)／クラリネット・ソナタ 第1番 ヘ短調 作品120-1*
ブラームス／ハイドンの主題による変奏曲 作品56a
ブラームス／ハンガリー舞曲集―第1番、第3番、第4番、第6番
ブラームス／ワルツ 作品39-15*
ブラームス／ワルツ集「愛の歌」作品52―第6曲「かわいらしい小鳥が」*
ブラームス(コンツ編)／ハンガリー舞曲集―第7番*
ブラームス／ハンガリー舞曲集―第2番、第5番

主催:パルテノン多摩共同事業体
お問合せ:パルテノン多摩 TEL (042) 376-8181

3/3日 3:00pm｜成田市制施行70周年記念 NHK交響楽団 成田公演

成田国際文化会館 大ホール

出演者・曲目は3月1日と同じ

主催:成田市
お問合せ:成田市シティプロモーション部文化国際課　TEL (0476) 20-1534

オーチャード定期

Bunkamuraオーチャードホール

1/8月祝 3:30pm

指揮:準・メルクル　ソプラノ:森野美咲＊
デュカス／交響詩「魔法使いの弟子」
トマ／歌劇「ミニョン」よりポロネーズ「私はティタニア」＊
J. シュトラウスII／常動曲 作品257
J. シュトラウスII／ワルツ「春の声」作品410＊
ブラームス／交響曲 第1番 ハ短調 作品68

横浜みなとみらいホール 大ホール

3/2土 3:30pm

出演者・曲目は3月1日と同じ

主催・お問合せ:Bunkamura TEL (03) 3477-3244

NHK交響楽団

首席指揮者：ファビオ・ルイージ
名誉音楽監督：シャルル・デュトワ
桂冠名誉指揮者：ヘルベルト・ブロムシュテット
桂冠指揮者：ウラディーミル・アシュケナージ
名誉指揮者：パーヴォ・ヤルヴィ
正指揮者：尾高忠明、下野竜也

特別コンサートマスター：篠崎史紀
コンサートマスター：伊藤亮太郎
ゲスト・コンサートマスター：郷古 廉

第1ヴァイオリン

青木 調
宇根京子
大鹿由希
○倉冨亮太
後藤 康
小林玉紀
髙井敏弘
猶井悠樹
中村弓子
降旗貴雄
○松田拓之
宮川奈々
村尾隆人
○山岸 努
○横島礼理
○横溝耕一

第2ヴァイオリン

◎大宮臨太郎
◎森田昌弘
木全利行
齋藤麻衣子
○嶋田慶子
○白井 篤
○田中晶子
坪井きらら
丹羽洋輔
平野一彦
船木陽子
俣野賢仁
○三又治彦
矢津将也
山田慶一
横山俊朗
米田有花

飯塚歩夢
東條太河

ヴィオラ

◎佐々木 亮
◎村上淳一郎
☆中村翔太郎
小野 聡
小畠茂隆
□坂口弦太郎
谷口真弓
飛澤浩人
○中村洋乃理
松井直之
三国レイチェル由依
♯御法川雄矢
○村松 龍
山田雄司

チェロ

◎辻本 玲
◎藤森亮一
市 寛也
小畠幸法
○中 実穂
○西山健一
藤村俊介
藤森洸一
宮坂拡志
村井 将
○山内俊輔
渡邊方子

コントラバス

◎吉田 秀
○市川雅典
稲川永示
○岡本 潤
今野 京
○西山真二
本間達朗
矢内陽子

フルート

◎甲斐雅之
◎神田寛明
梶川真歩
中村淳二

オーボエ

◎吉村結実
池田昭子
坪池泉美
和久井 仁

クラリネット

◎伊藤 圭
◎松本健司
♯山根孝司

ファゴット

◎宇賀神広宣
◎水谷上総
佐藤由起
菅原恵子
森田 格

ホルン

◎今井仁志
石山直城
勝俣 泰
木川博史
庄司雄大
野見山和子

トランペット

◎菊本和昭
◎長谷川智之
安藤友樹
山本英司

トロンボーン

◎古賀 光
◎新田幹男
池上 亘
黒金寛行
吉川武典

テューバ

池田幸広

ティンパニ

◎植松 透
◎久保昌一

打楽器

石川達也
黒田英実
竹島悟史

ハープ

早川りさこ

ステージ・マネージャー

徳永匡哉
黒川大亮

ライブラリアン

沖 あかね
木村英代

（五十音順、◎首席、☆首席代行、○次席、□次席代行、♯インスペクター）

特別支援・特別協力・賛助会員
Corporate Membership

特別支援

岩谷産業株式会社	代表取締役社長｜間島 寛
三菱地所株式会社	執行役社長｜中島 篤
株式会社 みずほ銀行	頭取｜加藤勝彦
公益財団法人 渋谷育英会	理事長｜小丸成洋

特別協力

BMW ジャパン	代表取締役社長｜Christian Wiedmann
全日本空輸株式会社	代表取締役社長｜井上慎一
ヤマハ株式会社	代表執行役社長｜中田卓也
株式会社 パレスホテル	代表取締役社長｜吉原大介
ぴあ株式会社	代表取締役社長｜矢内 廣

賛助会員

- 常陸宮
- ㈱アートレイ
  代表取締役｜小森活美
- ㈱アイシン
  取締役社長｜吉田守孝
- ㈱アインホールディングス
  代表取締役社長｜大谷喜一
- 葵設備工事㈱
  代表取締役社長｜安藤正明
- ㈱あ佳音
  代表取締役社長｜遠山信之
- AXLBIT㈱
  代表取締役社長｜長谷川章博
- アサヒグループホールディングス㈱
  代表取締役社長兼CEO｜勝木敦志
- ㈱朝日工業社
  代表取締役社長｜髙須康有
- 朝日信用金庫
  理事長｜伊藤康博
- 有限責任 あずさ監査法人
  理事長｜森 俊哉
- アットホーム㈱
  代表取締役社長｜鶴森康史
- イーソリューションズ㈱
  代表取締役社長｜佐々木経世
- EY新日本有限責任監査法人
  理事長｜片倉正美
- ㈱井口一世
  代表取締役｜井口一世
- 池上通信機㈱
  代表取締役社長｜清森洋祐
- 伊東国際特許事務所
  所長｜伊東忠重
- 井村屋グループ㈱
  代表取締役会長(CEO)｜中島伸子
- ㈲IL VIOLINO MAGICO
  代表取締役｜山下智之
- ㈱インターネットイニシアティブ
  代表取締役会長｜鈴木幸一
- ㈱ウインクツー
  代表取締役｜福田健二
- 内 聖美
- SMBC日興証券㈱
  代表取締役社長｜近藤雄一郎
- SCSK㈱
  代表取締役 執行役員 社長｜當麻隆昭
- ㈱NHKアート
  代表取締役社長｜平田恭佐
- NHK営業サービス㈱
  代表取締役社長｜長村 中
- ㈱NHKエデュケーショナル
  代表取締役社長｜荒木美弥子
- ㈱NHKエンタープライズ
  代表取締役社長｜有吉伸人
- ㈻NHK学園
  理事長｜等々力 健
- ㈱NHKグローバルメディアサービス
  代表取締役｜傍田賢治
- ㈱NHK出版
  代表取締役社長｜松本浩司
- ㈱NHKテクノロジーズ
  代表取締役社長｜野口周一

- ㈱NHKビジネスクリエイト
  代表取締役社長｜石原 勉
- ㈱NHKプロモーション
  代表取締役社長｜有吉伸人
- ㈱NHK文化センター
  代表取締役社長｜浦林竜太
- ㈱NTTドコモ
  代表取締役社長｜井伊基之
- ㈱NTTファシリティーズ
  代表取締役社長｜松原和彦
- ENEOSホールディングス㈱
  代表取締役社長 社長執行役員
  齊藤 猛
- 荏原冷熱システム㈱
  代表取締役｜庄野 道
- ㈱エレトク
  代表取締役｜間部惠造
- 大崎電気工業㈱
  代表取締役会長｜渡辺佳英
- 大塚ホールディングス㈱
  代表取締役社長兼CEO｜樋口達夫
- ㈱大林組
  代表取締役｜蓮輪賢治
- オールニッポンヘリコプター㈱
  代表取締役社長｜柳川 淳
- 岡崎耕治
- 小田急電鉄㈱
  取締役社長｜星野晃司
- カシオ計算機㈱
  代表取締役社長CEO兼CHRO
  増田裕一
- 鹿島建設㈱
  代表取締役社長｜天野裕正
- ㈱加藤電気工業所
  代表取締役｜加藤浩章
- ㈱金子製作所
  代表取締役｜金子晴房
- カルチュア・エンタテインメント㈱
  代表取締役 社長執行役員｜中西一雄
- ㈱関電工
  取締役社長｜仲摩俊男
- ㈱かんぽ生命保険
  取締役兼代表執行役社長｜谷垣邦夫
- キッコーマン㈱
  代表取締役社長COO｜中野祥三郎
- ㈱CURIOUS PRODUCTIONS
  代表取締役｜黒川幸太郎
- ㈱教育芸術社
  代表取締役｜市川かおり
- ㈱共栄サービス
  代表取締役｜半田 充
- ㈱共同通信会館
  代表取締役専務｜梅野 修
- ㈠社共同通信社
  社長｜水谷 亨
- キリンホールディングス㈱
  代表取締役社長｜磯崎功典
- ㈻国立音楽大学
  理事長｜重盛次正
- 京王電鉄㈱
  代表取締役社長 社長執行役員
  都村智史
- 京成電鉄㈱
  代表取締役社長 社長執行役員
  小林敏也
- KDDI㈱
  代表取締役社長｜髙橋 誠
- ㈹社団 恒仁会
  理事長｜伊藤恒道
- ㈱コーポレイトディレクション
  代表取締役｜小川達大
- 小林弘侑
- 佐川印刷㈱
  代表取締役会長｜木下宗昭
- 佐藤弘康
- サフラン電機㈱
  代表取締役｜藤崎貴之
- ㈱サンセイ
  代表取締役｜冨田佳佑
- サントリーホールディングス㈱
  代表取締役社長｜新浪剛史
- ㈱ジェイ・ウィル・コーポレーション
  代表取締役｜佐藤雅典
- JCOM㈱
  代表取締役社長｜岩木陽一
- ㈱シグマクシス・ホールディングス
  取締役会長兼取締役会議長｜富村隆一
- ㈱ジャパン・アーツ
  代表取締役社長｜二瓶純一
- ㈱集英社
  代表取締役社長｜廣野眞一
- ㈱小学館
  代表取締役社長｜相賀信宏
- ㈱商工組合中央金庫
  代表取締役社長｜関根正裕
- 庄司勇次朗・惠子
- ジョンソン・エンド・ジョンソン㈱
- ㈱白川プロ
  代表取締役｜白川亜弥
- 新赤坂クリニック青山
  院長｜松木隆央
- 信越化学工業㈱
  代表取締役社長｜斉藤恭彦
- 新菱冷熱工業㈱
  代表取締役社長｜加賀美 猛
- ㈱スカパーJSATホールディングス
  代表取締役社長｜米倉英一
- ㈱菅原
  代表取締役｜古江訓雄
- スズキ㈱
  代表取締役社長｜鈴木俊宏
- 住友商事㈱
  代表取締役社長執行役員 CEO
  兵頭誠之
- 住友電気工業㈱
  社長｜井上 治
- セイコーグループ㈱
  代表取締役会長兼グループCEO
  兼グループCCO｜服部真二
- 聖徳大学
  学長｜川並弘純
- 西武鉄道㈱
  代表取締役社長｜小川周一郎
- 関彰商事㈱
  代表取締役会長｜関 正夫
- ㈱セノン
  代表取締役｜稲葉 誠
- ㈱ソニー・ミュージックエンタテインメント
  代表取締役社長CEO｜村松俊亮
- 損害保険ジャパン㈱
  取締役社長｜白川儀一
- 第一三共㈱
  代表取締役会長兼CEO｜眞鍋 淳
- 第一生命保険㈱
  代表取締役社長｜隅野俊亮
- ダイキン工業㈱
  取締役社長｜十河政則

- 大成建設㈱
  代表取締役社長｜相川善郎
- 大日コーポレーション㈱
  代表取締役社長兼グループCEO
  鈴木忠明
- 高砂熱学工業㈱
  代表取締役社長｜小島和人
- ㈱ダク
  代表取締役｜福田浩二
- ㈱竹中工務店
  取締役執行役員社長｜佐々木正人
- 田中貴金属工業㈱
  代表取締役社長執行役員
  田中浩一朗
- 田中 進
- 田原 昇
- チャンネル銀河㈱
  代表取締役会長兼社長｜古谷太郎
- 中央日本土地建物グループ㈱
  代表取締役社長｜三宅 潔
- 中外製薬㈱
  代表取締役社長｜奥田 修
- テルウェル東日本㈱
  代表取締役社長｜石川 達
- ㈱電通
  代表取締役社長執行役員｜榑谷典洋
- ㈱テンポプリモ
  代表取締役｜中村聡武
- 東海東京フィナンシャル・ホールディングス㈱
  代表取締役会長｜石田建昭
- 東海旅客鉄道㈱
  代表取締役社長｜丹波俊介
- 東急㈱
  取締役社長｜堀江正博
- ㈱東急文化村
  代表取締役｜嶋田 創
- 東京海上日動火災保険㈱
  取締役社長｜広瀬伸一
- ㈱東京交通会館
  取締役社長｜興野敦郎
- 東信地所㈱
  代表取締役｜堀川利通
- 東武鉄道㈱
  取締役社長｜都筑 豊
- 桐朋学園大学
  学長｜辰巳明子
- 東邦ホールディングス㈱
  代表取締役｜有働 敦
- ㈱東北新社
  代表取締役社長｜小坂恵一
- 鳥取末広座㈱
  代表取締役社長｜西川八重子
- ㈠財凸版印刷三幸会
  代表理事｜金子眞吾
- トヨタ自動車㈱
  代表取締役社長｜佐藤恒治
- 内外施設工業グループホールディングス㈱
  代表取締役社長｜林 克昌
- 中銀グループ
  代表｜渡辺蔵人
- 日興アセットマネジメント㈱
  会長｜西田 豊
- 日鉄興和不動産㈱
  代表取締役社長｜三輪正浩
- 日東紡績㈱
  取締役 代表執行役社長｜辻 裕一
- ㈱日本アーティスト
  代表取締役｜幡野菜穂子
- 日本ガイシ㈱
  取締役社長｜小林 茂
- ㈱日本カストディ銀行
  代表取締役社長｜土屋正裕
- ㈱日本国際放送
  代表取締役社長｜髙尾 潤
- 日本通運㈱
  代表取締役社長｜堀切 智
- 日本電気㈱
  代表取締役執行役員社長｜森田隆之
- ㈠財日本放送協会共済会
  理事長｜谷弘聡史
- 日本郵政㈱
  取締役兼代表執行役社長｜増田寛也
- ㈱ニフコ
  取締役会長｜山本利行
- 野田浩一
- 野村ホールディングス㈱
  代表執行役社長｜奥田健太郎
- パナソニック ホールディングス㈱
  代表取締役 社長執行役員 グループCEO
  楠見雄規
- ㈱原田武夫国際戦略情報研究所
  代表取締役｜原田武夫
- ㈲パルフェ
  代表取締役｜伊藤良彦
- ぴあ㈱
  代表取締役社長｜矢内 廣
- 東日本電信電話㈱
  代表取締役社長｜澁谷直樹
- ㈱日立製作所
  執行役社長｜小島啓二
- ㈱フォトロン
  代表取締役｜瀧水 隆
- 福田三千男
- 富士通㈱
  代表取締役社長｜時田隆仁
- 富士通フロンテック㈱
  代表取締役社長｜渡部広史
- 古川建築音響研究所
  所長｜古川宣一
- ペプチドリーム㈱
  代表取締役社長CEO｜リード・パトリック
- ㈱朋栄ホールディングス
  代表取締役｜清原克明
- ㈱放送衛星システム
  代表取締役社長｜角 英夫
- ㈳財放送文化基金
  理事長｜濱田純一
- ホクト㈱
  代表取締役社長｜水野雅義
- ㈱ポケモン
  代表取締役社長｜石原恒和
- 前田工繊㈱
  代表取締役社長兼COO｜前田尚宏
- 牧 寛之
- 町田優子
- 丸紅㈱
  代表取締役社長｜柿木真澄
- 溝江建設㈱
  代表取締役社長｜溝江 弘
- 三井住友海上火災保険㈱
  代表取締役｜舩曳真一郎
- ㈱三井住友銀行
  頭取｜福留朗裕
- 三井住友信託銀行㈱
  取締役社長｜大山一也
- 三菱商事㈱
  代表取締役社長｜中西勝也

- 三菱電機㈱
  執行役社長｜漆間 啓
- ㈱緑山スタジオ・シティ
  代表取締役社長｜永田周太郎
- 三橋産業㈱
  代表取締役会長｜三橋洋之
- 三原穂積
- ㈱ミロク情報サービス
  代表取締役社長｜是枝周樹
- ㈻武蔵野音楽学園 武蔵野音楽大学
  理事長｜福井直敬
- ㈱明治
  代表取締役社長｜松田克也
- ㈱明電舎
  執行役員社長｜井上晃夫
- メットライフ生命保険㈱
  取締役 代表執行役 副社長｜伊地知 剛
- ㈱目の眼
  社主｜櫻井 恵
- ㈱モメンタム ジャパン
  代表取締役社長｜三溝広志
- 森ビル㈱
  代表取締役社長｜辻 慎吾
- 森平舞台機構㈱
  代表取締役｜森 健輔
- 矢下茂雄
- 山田産業㈱
  代表取締役｜山田裕幸
- ㈱山野楽器
  代表取締役社長｜山野政彦
- ㈱ヤマハミュージックジャパン
  代表取締役社長｜西村 淳
- ユニオンツール㈱
  代表取締役会長｜片山貴雄
- 米澤文彦
- ㈱読売広告社
  代表取締役社長｜菊地英之
- ㈱読売旅行
  代表取締役社長｜貞広貴志
- リコージャパン㈱
  代表取締役 社長執行役員 CEO
  木村和宏
- 料亭 三長
  代表｜髙橋千善
- ㈱リンレイ
  代表取締役社長｜鈴木信也
- ㈲ルナ・エンタープライズ
  代表取締役｜戸張誠二
- ローム㈱
  代表取締役社長 社長執行役員
  松本 功
- YKアクロス㈱
  代表取締役社長｜田渕浩記
- YCC㈱
  社長｜中山武之
- 渡辺敦郎・優子

（五十音順、敬称略）

NHK交響楽団への ご寄付について

NHK交響楽団は多くの方々の貴重なご寄付に支えられて、積極的な演奏活動を展開しております。定期公演の充実をはじめ、著名な指揮者・演奏家の招聘、意欲あふれる特別演奏会の実現、海外公演の実施など、今後も音楽文化の向上に努めてまいりますので、みなさまのご支援をよろしくお願い申し上げます。

「賛助会員」入会のご案内

NHK交響楽団は賛助会員制度を設け、上記の方々にご支援をいただいており、当団の経営基盤を支える大きな柱となっております。会員制度の内容は次の通りです。

1. **会費**：一口50万円（年間）
2. **期間**：入会は随時、年会費をお支払いいただいたときから1年間
3. **入会の特典**：『フィルハーモニー』、「年間パンフレット」、「『第9』演奏会プログラム」等にご芳名を記載させていただきます。
   N響主催公演のご鑑賞や会場リハーサル見学の機会を設けます。

遺贈のご案内

資産の遺贈（遺言による寄付）を希望される方々のご便宜をお図りするために、NHK交響楽団では信託銀行が提案する「遺言信託制度」をご紹介しております（三井住友信託銀行と提携）。相続財産目録の作成から遺産分割手続の実施まで、煩雑な相続手続を信託銀行が有償で代行いたします。まずはN響寄付担当係へご相談ください。

■当団は「公益財団法人」として認定されています。
当団は芸術の普及向上を行うことを主目的とする法人として「公益財団法人」の認定を受けているため、当団に対する寄付金は税制上の優遇措置の対象となります。

お問い合わせ	公益財団法人 NHK交響楽団「寄付担当係」	TEL：03-5793-8120

曲目解説執筆者

太田峰夫（おおた みねお）
京都市立芸術大学教授。おもな研究領域は20世紀ハンガリー音楽史、とりわけバルトークの音楽。音楽専門誌への寄稿のほか、著書に『バルトーク 音楽のプリミティヴィズム』、共訳書に『バルトーク音楽論選』、論文に「音楽のナショナリズムとその周囲――ヨーゼフ・ヨアヒムとハンガリーとの関係を中心に」など。

神部 智（かんべ さとる）
国立音楽大学音楽学部教授・副学長。博士（音楽学）。専門は19世紀から20世紀にかけての西洋芸術音楽の歴史的、美学的研究。著書に『シベリウス』（作曲家・人と作品シリーズ、第30回ミュージック・ペンクラブ音楽賞受賞）、『シベリウスの交響詩とその時代――神話と音楽をめぐる作曲家の冒険』、共著書に『名曲理解のための実用楽典』『キーワード150 音楽通論』など。

増田良介（ますだ りょうすけ）
専門はショスタコーヴィチをはじめとするロシア・ソ連音楽と後期ロマン派音楽。音楽専門誌や演奏会プログラム、各社ライナーノートなどへの寄稿のほか、著書に『究極のオーケストラ超名曲徹底解剖66』など。

（五十音順、敬称略）

Information

『フィルハーモニー』
2023年10月号
掲載内容変更のお知らせ

本誌2023年10月号の編集終了後、同月定期公演で指揮を務める予定だったヘルベルト・ブロムシュテット氏は、体調不良のため医師のアドバイスに従い、来日を見合わさざるを得なくなりました。このため、10月定期公演は以下のように変更となりました。

・Aプログラム（14日［土］、15日［日］｜NHKホール）：中止。
・Cプログラム（20日［金］、21日［土］｜NHKホール）：指揮者を高関健氏に変更。
・Bプログラム（25日［水］、26日［木］｜サントリーホール）：指揮者を尾高忠明氏に変更。

なお、曲目、ソリスト（Bプログラムのみ）に変更はございませんでした。

みなさまの声をお聞かせください！

インターネットアンケートにご協力ください

ご鑑賞いただいた公演のご感想や、N響の活動に対するみなさまのご意見を、ぜひお寄せください。
ご協力をお願いいたします。

アクセス方法

STEP
1

スマートフォンで右の
QRを読み取る。
またはURLを入力
https://www.nhkso.or.jp/enquete.html

STEP
2

開いたリンク先からアンケートサイトに入る

STEP
3

アンケートに答えて（約5分）、
「送信」を押して完了！

ほかにもご意見・ご感想がありましたらお寄せください。
定期公演会場の主催者受付にお持ちいただくか、
〒108-0074東京都港区高輪2-16-49 NHK交響楽団 フィルハーモニー編集までお送りください。

ふりがな		年齢	歳
お名前		TEL	

個人情報の取り扱いについて	ご提供いただいた個人情報は、必要な場合、ご記入者様への連絡のみに使用し、他の目的に使用いたしません。

キリトリ

NHK SYMPHONY ORCHESTRA, TOKYO

Chief Conductor: Fabio Luisi
Music Director Emeritus: Charles Dutoit
Honorary Conductor Laureate: Herbert Blomstedt
Conductor Laureate: Vladimir Ashkenazy
Honorary Conductor: Paavo Järvi
Permanent Conductors: Tadaaki Otaka, Tatsuya Shimono

Specially Appointed Concertmaster: Fuminori Maro Shinozaki
Concertmaster: Ryotaro Ito
Guest Concertmaster: Sunao Goko

1st Violins

Shirabe Aoki
Kyoko Une
Yuki Oshika
○ Ryota Kuratomi
Ko Goto
Tamaki Kobayashi
Toshihiro Takai
Yuki Naoi
Yumiko Nakamura
Takao Furihata
○ Hiroyuki Matsuda
Nana Miyagawa
Ryuto Murao
○ Tsutomu Yamagishi
○ Masamichi Yokoshima
○ Koichi Yokomizo

2nd Violins

◎ Rintaro Omiya
◎ Masahiro Morita
Toshiyuki Kimata
Maiko Saito
○ Keiko Shimada
○ Atsushi Shirai
○ Akiko Tanaka
Kirara Tsuboi
Yosuke Niwa
Kazuhiko Hirano
Yoko Funaki
Kenji Matano
○ Haruhiko Mimata
Masaya Yazu
Yoshikazu Yamada
Toshiro Yokoyama
Yuka Yoneda

Ayumu Iizuka
Taiga Tojo

Violas

◎ Ryo Sasaki
◎ Junichiro Murakami
☆ Shotaro Nakamura
Satoshi Ono
Shigetaka Obata
□ Gentaro Sakaguchi
Mayumi Taniguchi
Hiroto Tobisawa
○ Hironori Nakamura
Naoyuki Matsui
Rachel Yui Mikuni
♯ Yuya Minorikawa
○ Ryo Muramatsu
Yuji Yamada

Cellos

◎ Rei Tsujimoto
◎ Ryoichi Fujimori
Hiroya Ichi
Yukinori Kobatake
○ Miho Naka
○ Ken'ichi Nishiyama
Shunsuke Fujimura
Koichi Fujimori
Hiroshi Miyasaka
Yuki Murai
○ Shunsuke Yamanouchi
Masako Watanabe

Contrabasses

◎ Shu Yoshida
○ Masanori Ichikawa
Eiji Inagawa
○ Jun Okamoto
Takashi Konno
○ Shinji Nishiyama
Tatsuro Honma
Yoko Yanai

Flutes

◎ Masayuki Kai
◎ Hiroaki Kanda
Maho Kajikawa
Junji Nakamura

Oboes

◎ Yumi Yoshimura
Shoko Ikeda
Izumi Tsuboike
Hitoshi Wakui

Clarinets

◎ Kei Ito
◎ Kenji Matsumoto
♯ Takashi Yamane

Bassoons

◎ Hironori Ugajin
◎ Kazusa Mizutani
Yuki Sato
Keiko Sugawara
Itaru Morita

Horns

◎ Hitoshi Imai
Naoki Ishiyama
Yasushi Katsumata
Hiroshi Kigawa
Yudai Shoji
Kazuko Nomiyama

Trumpets

◎ Kazuaki Kikumoto
◎ Tomoyuki Hasegawa
Tomoki Ando
Eiji Yamamoto

Trombones

◎ Hikaru Koga
◎ Mikio Nitta
Ko Ikegami
Hiroyuki Kurogane
Takenori Yoshikawa

Tuba

Yukihiro Ikeda

Timpani

◎ Toru Uematsu
◎ Shoichi Kubo

Percussion

Tatsuya Ishikawa
Hidemi Kuroda
Satoshi Takeshima

Harp

Risako Hayakawa

Stage Manager

Masaya Tokunaga
Daisuke Kurokawa

Librarian

Akane Oki
Hideyo Kimura

(◎ Principal, ☆ Acting Principal, ○ Vice Principal, □ Acting Vice Principal, ♯ Inspector)

PROGRAM

A

Concert No.1997

NHK Hall

November

25 (Sat) **6:00pm**

26 (Sun) **2:00pm**

conductor Vladimir Fedoseyev

concertmaster Ryotaro Ito

Georgy Sviridov
Small Triptych [10′]

I Allegro moderato un poco rubato
II Con tutta forza, un poco maestoso
III Allegro moderato

Sergei Prokofiev
***War and Peace,* opera Op. 91**
—*Waltz* in scene 2 [6′]

Anton Rubinstein
Ballet Music from *The Demon,* opera—*Dance of Girls* [6′]

Mikhail Glinka
***Ivan Sussanin*, opera**
—*Krakowiak* [5′]

Nikolai Rimsky-Korsakov
***Snow Maiden*, suite** [13′]

I Introduction
II Dance of the Birds
III Cortege
IV Dance of the Skomorokhi

— intermission (20 minutes) **—**

Peter Ilich Tchaikovsky / Vladimir Fedoseyev
***The Sleeping Beauty*, ballet suite** [39′]

I March (Prologue No. 1)
II Dance Scene (Prologue No. 2)
III Pas de six (Prologue No. 3)
IV Waltz (Act I No. 6)
V Pas d'action (Act II No. 15a "Scene of Aurora and Désiré")
VI Aurora's Variation (Act II No. 15b)
VII Panorama (Act II No. 17)
VIII Adagio (Act III No. 25a Pas de quatre)
IX Tempo di mazurka (Act III No. 30 Finale)
X Sarabande (Act III No. 29)
XI The Silver Fairy (Act III No. 23 Var.II)
XII Aurora and Désiré's Adagio (Act I No. 8a Pas d'Action)

- Changed from original program.
- All performance durations are approximate.

Artist Profile

Vladimir Fedoseyev, conductor

Vladimir Fedoseyev was born in Leningrad (present day St. Petersburg) in 1932, and studied at music institutions, including the Moscow State Tchaikovsky Conservatory. The invitation by Mravinsky, the great maestro of the time, to guest-conduct the Leningrad Philharmonic Orchestra in 1971 opened up his brilliant career. He was appointed Music Director and Chief Conductor of the Moscow Radio Symphony Orchestra (now the Tchaikovsky Symphony Orchestra) in 1974. Since then, he raised up the level of the orchestra to one of the leading orchestras in Russia, and has built up a partnership spanning for nearly 50 years, which is quite rare in the modern orchestral history.

He has often made guest appearances with the world's renowned orchestras including the Berliner Philharmoniker, and since 1996, he has been Principal Guest Conductor of the Tokyo Philharmonic Orchestra, and served as Principal Conductor of the Wiener Symphoniker from 1997 to 2004. He has also achieved a luminous career at opera houses including the Oper Zürich where he was Chief Guest Conductor, as well as the Wiener Staatsoper and La Scala, Milan. In addition, he has an extensive discography and has received many awards.

He has guest-conducted the NHK Symphony Orchestra quite often since his first collaboration in May 2013, and showed an energetic performance to his audience in March this year in the orchestra's concerts in the Kinki region. The programs he will be conducting on this visit, which mainly consist of masterpieces of operatic and ballet works from his native country, are highly suitable to fully display his true potential. It will be a precious opportunity for audience members to experience his powerful and colorful music in a solidly formed structure. We have a great expectation towards his appearance in the orchestra's subscription series after a five-year absence.

[Vladimir Fedoseyev by Katsuhiko Shibata, music critic]

Program Notes | Kumiko Nishi

Georgy Sviridov (**1915–1998**)

Small Triptych

Born two years before the Bolshevik Revolution, Sviridov was a prominent Soviet composer. Originally from the Kursk Province near Ukraine, he learned to play piano and balalaika (traditional stringed instrument with a triangular body) before studying composition under Shostakovich in Leningrad. *Small Triptych* (1964) is composed of three parts performed continuously. The time of the quasi-mystic first part seems to stand still due to extended melodies altering triple and binary time; besides they are played with "un poco rubato" (a subtle fluctuation of tempo) according to Sviridov's marking. After the valorous middle part with the brass in the forefront, the finale (in A–B form) opens with piano, celesta and harps evoking the strums of balalaika over which a folky tune is heard.

Sergei Prokofiev (1891–1953)

War and Peace, opera—*Waltz* in scene 2

Prokofiev was born in Sontsivka village in Imperial Russia (today in Donetsk Oblast, Ukraine) in the last decade of the 19th century. He led a dramatic life like other Soviet musicians and died in Moscow on the same day as Stalin. Based on Leo Tolstoy's novel, the monumental opera *War and Peace* was composed from 1941 to 1952 after Prokofiev settled for good in 1936 in his homeland – then the USSR – following an eighteen-year overseas life. The opera tells the love story between the nobles Natasha and Andrei against the backdrop of the 1812 French invasion of Russia. The *Waltz* is from the famous scene of a New-Year's-Eve ball where the couple meet for the first time.

Anton Rubinstein (1829–1894)

Ballet Music from *The Demon*, opera—*Dance of Girls*

Nowadays, Rubinstein is mentioned above all as a world's greatest pianist of the 19th century. His prodigious versatility, however, exerted considerable influence more widely on Russian classical music history. He was indeed a prolific composer, a leading conductor and the founder of the Saint Petersburg Conservatory (the country's first full-fledged music institution) where Tchaikovsky and Prokofiev were trained. Based on Mikhail Lermontov's narrative poem, *The Demon* was the Russians' most favored opera for a quarter century since its 1875 premiere, along with Glinka's *Ivan Sussanin* (described below). In the story set in Georgia, the title role (a fallen angel) falls in love with Tamara, mortal and beautiful, just before her marriage to Prince Sinodal. Performed during their wedding festivities, *Dance of Girls* has a folk atmosphere enhanced by the multiple repetitions of the two melodies.

Mikhail Glinka (1804–1857)

Ivan Sussanin, opera—*Krakowiak*

Fascinated by folk melodies of his homeland, Glinka blazed the trail of the distinct Russian style in classical music previous to younger compatriots including Rimsky-Korsakov. *Ivan Sussanin*, premiered under the title *A Life for the Tsar* in 1836, is considered the first Russian opera as there had existed only Singspiel-type works (with dialogues spoken) by then. Described "a national heroic-tragic opera" by Glinka, it is based on the 17th-century-legend of a patriotic peasant who sacrificed himself to save the life of Tsar Michael I from Polish troops. The opera gives a vivid contrast between the music embodying Russians and Poles. A Polish folk dance with syncopated rhythms (displacement of accents), *Krakowiak* is from the scene of a ball held by Polish nobles.

Nikolai Rimsky-Korsakov (1844–1908)

Snow Maiden, suite

Rimsky-Korsakov's pursuit of a national style as Glinka's heir belonged to one of the two mainstreams of the late-19th-century Russian music scene, in opposition to the more Western

European style of Tchaikovsky. On an individual level, the composer of *Scheherazade* is celebrated for his peerlessly masterful orchestration which he fully displays in *Snow Maiden* (1881). Set in prehistoric age, this fairy-tale opera features the mythical title-role, the daughter of Grandfather Frost and Spring Beauty. The cause of a long-lasting winter, the heroine melts away in the sunlight upon discovering human love so spring comes back at last. The suite prepared by the composer in 1895 includes the opera's introduction which lets us enjoy one of the most ice-cold-sounding orchestral works ever written.

Peter Ilich Tchaikovsky (1840–1893) / **Vladimir Fedoseyev** (1932–)

The Sleeping Beauty, ballet suite

A

25 & 26. NOV. 2023

The year 1886 was a crucial one for ballet history, for Ivan Vsevolozhsky, then the director of the Imperial Theatres in Saint Petersburg, took two drastic measures. One was relocating the Imperial Ballet from the aging Bolshoi Kamenny Theatre to the newer Mariinsky Theatre. The other, was putting an end to the post of principal composer at the Imperial Ballet aiming at diversifying ballet music. This would give birth to the two masterworks, *The Sleeping Beauty* and *The Nutcracker* (premiered respectively in 1890 and 1892 at the Mariinsky Theatre) of which Vsevolozhsky commissioned Tchaikovsky to compose the scores. More than a decade had passed then, since the composer suffered a bitter experience at the premiere of *Swan Lake* in Moscow with his music being treated disrespectfully.

The orchestral suite performed today was prepared by the conductor Vladimir Fedoseyev himself, a true champion of Tchaikovsky's music. Composed of twelve numbers (with some cuts) from *The Sleeping Beauty*, this version is opened by the noble I *March* from the ceremonial scene of the baby Princess Aurora's baptism. The graceful IV *Waltz* is danced by villagers holding flower garlands for the heroine's sixteenth birthday party. The suite ends with the famous number known as "Rose" XII *Aurora and Désiré's Adagio*: it is danced by Aurora and her four suitors during the birthday party scene, before she falls into a 100-year sleep by pricking her finger on a cursed spindle.

Kumiko Nishi

English-French-Japanese translator based in the USA. Holds a MA in musicology from the University of Lyon II, France and a BA from the Tokyo University of the Arts (Geidai).

PROGRAM

B

Concert No.1996

Suntory Hall

November

15(Wed) **7:00pm**

16(Thu) **7:00pm**

conductor	Jukka-Pekka Saraste
violin	Pekka Kuusisto
concertmaster	Sunao Goko

Jean Sibelius
***Tapiola*, symphonic poem Op. 112**
[19′]

Igor Stravinsky
Violin Concerto in D [22′]

I Toccata
II Aria I
III Aria II
IV Capriccio

— **intermission** (20 minutes) —

Jean Sibelius
Symphony No. 1 E Minor Op. 39
[38′]

I Andante, ma non troppo – Allegro energico
II Andante (ma non troppo lento)
III Scherzo: Allegro
IV Finale (Quasi una fantasia):
Andante – Allegro molto

- All performance durations are approximate.

B

15 & 16. NOV. 2023

Artist Profiles

Jukka-Pekka Saraste, conductor

©Felix Broede

Jukka-Pekka Saraste, born in Heinola, Finland, started his career as a violinist before studying conducting under Jorma Panula at the Sibelius Academy in Helsinki to shift his direction, and now he is one of the world's most renowned conductors. He is particularly known for works of the late Romantic period as well as contemporary music, giving the world premiere performances to works by Wolfgang Rihm, Friedrich Cerha and Pascal Dusapin. In 1983, together with Esa-Pekka Salonen, he launched the Avanti! Chamber Orchestra, an ensemble specialized in modern music.

The positions he has served till now include Principal Conductor of the Scottish Chamber Orchestra, the Finnish Radio Symphony Orchestra, Chief Conductor of the WDR Symphony

Orchestra in Cologne, Music Director of the Toronto Symphony Orchestra, and Music Director and Chief Conductor of the Oslo Philharmonic Orchestra. He assumed the position of Principal Conductor and Artistic Director of the Helsinki Philharmonic Orchestra in the summer of 2023. He also founded the Finnish Chamber Orchestra and its Tammisaari Festival where the orchestra plays the main part. In recent years, he has also injected his energy into an educational program designed to inspire young musicians called LEAD! The Orchestra Project, which he co-founded.

Our expectations on his appearance are rising, as we will have the opportunity to hear Stravinsky Violin Concerto with Pekka Kuusisto and Sibelius Symphony No. 1, which he would have conducted in the unfortunately cancelled subscription concert of Program C in June 2020.

Pekka Kuusisto, violin

Finnish violinist Pekka Kuusisto enjoys an outstanding repertoire ranging from Bach to contemporary works and to jazz and folk music, employing a highly expressive playing style. In recent years, he has worked with the Chicago Symphony Orchestra, the Swedish Radio Symphony Orchestra and the Tokyo Metropolitan Symphony Orchestra, and was named as the Philharmonia Orchestra's Featured Artist. He injects much of his energy in conducting while also playing as a soloist as well as serving as a leader to ensembles. He has assumed the positions of Principal Guest Conductor and Artistic Co-director of the Helsinki Philharmonic Orchestra this season. Born in 1976, he is from a musical family with both his grandfather having been and his father being renowned composers, while his elder brother Jaakko, who passed away in 2022 at the untimely age of forty-eight, was a distinguished violinist. Pekka Kuusisto studied at the Sibelius Academy in Helsinki and Indiana University, and became the first Finn to win the International Jean Sibelius Violin Competition in 1995. Stravinsky's Violin Concerto, which he plays in a dignified sound and manner, is his favorite work, and he has played it with the Philharmonia Orchestra under Santtu-Matias Rouvali. This is his first appearance with the NHK Symphony Orchestra.

[Jukka-Pekka Saraste by Ryosuke Masuda, music critic, Pekka Kuusisto by Yoshimichi Okuda, music critic]

Jean Sibelius (1865–1957)

Tapiola, symphonic poem Op. 112

The Finnish composer Sibelius' latter life resembles that of Rossini who lived virtually in retirement for nearly four decades after completing his 39th opera William Tell (1829). Sibelius indeed bowed out as composer at the peak of his fame to hold back on full-blown creative activities for thirty odd years. He passed away at age 91 at his house surrounded by nature in Järvenpää, Finland. During this silent period, he penned the Symphony No. 8 but threw it away unfinished through self-criticism. Therefore, the symphonic (tone) poem *Tapiola* is left to us as his last major work he completed and published. It was composed in 1926 to be premiered the same year in New York. Incidentally, his last symphony (No. 7) had been first performed back in 1924.

The title of the symphonic poem stands for the domain of Tapio, the Finnish mythological god of forests mentioned in the *Kalevala* (Finland's national epic which inspired several works of Sibelius). The published score of *Tapiola* was prefaced with the following quatrain authorized by the composer:

Wide-spread they stand, the Northland's dusky forests,
Ancient, mysterious, brooding savage dreams;
Within them dwells the Forest's mighty God,
And wood-sprites in the gloom weave magic secrets.

Tapiola is highly valued for its meticulously elaborated motivic development: at the outset over timpani rumbling, strings state a nine-note motif which would be restated repeatedly in different forms and generate other main motifs/themes heard later.

Igor Stravinsky (1882–1971)

Violin Concerto in D

Music historians have dubbed Stravinsky "Chameleon," for the Russia-born cosmopolitan composer changed styles drastically and frequently. A pupil of Rimsky-Korsakov in Saint Petersburg, Stravinsky produced a great sensation in 1913 in Paris with his so-called "primitivistic" music for the modern ballet, *The Rite of Spring*. He then wrote in 1920 a score for the ballet *Pulcinella*: this epochal composition, this time, marked the start of musical neo-classicism, an important movement to revive idioms and aesthetics of the 17th and 18th centuries in modern lights.

Violin Concerto in D is also from Stravinsky's neo-classic period. He composed it in 1931 in France taking some technical advice from the Polish American violinist Samuel Dushkin who would premiere it. The titles of all four movements already express clearly the influence from forms omnipresent in Baroque music: Toccata, Arias and Capriccio. Stravinsky even admitted that the dialogue between the soloist and the concertmaster (the lead violinist of the orchestra) heard during the final *Capriccio* was inspired by the first movement of J. S. Bach's Concerto for Two Violins BWV1043.

For the unity of the work, Stravinsky opens every movement with a dissonant chord with three notes (D, E, A) large-intervals apart. While metric and rhythmic variability distinguishes joyous I *Toccata*, virtuosic IV *Capriccio* is characterized by its syncopated rhythms (displacements of accents) and rural mood. The inner *Arias* are rare opportunities for listeners to savor the composer's lyrical and even introspective sides.

Jean Sibelius

Symphony No. 1 E Minor Op. 39

Finland's timeless hero, Sibelius established the country's national identity in music. After studying abroad in Berlin and Vienna, the composer in his late twenties sprung into fame domestically with the 1892 premiere in Helsinki of *Kullervo*, a symphonic piece for voices and orchestra based on the above-mentioned epic *Kalevala*. He went on writing nationalist tone poems such as *The Swan of Tuonela* (1895/1897/1900) and *Finlandia* (1899/1900). Interestingly enough, he derived inspiration from the country's nature, history or literature, rather than quoting actual folk songs like so many patriotic composers.

Contemporary with *Finlandia*, Symphony No. 1 is purely instrumental with no explicit program. This composition was Sibelius' first step as a symphonist in the pan-European tradition, another important face of him. His six completed symphonies would follow after it to greatly enhance 20th-century music history, for most of his colleagues of the time turned their back on the genre seemingly anchored by Bruckner and Mahler.

Sibelius began sketches of No. 1 in 1898 while travelling in Berlin and returned home to complete it in 1899. Following the first performance in the same year in Helsinki, he made amendments to the score. This definitive version, premiered in 1900 in the capital, was published in 1902. Although including harp and tuba, the instrumentation is closer to that of the symphonies of Beethoven and Brahms than, for instance, Mahler's No. 5 penned in 1901–1902.

Sibelius' No. 1 has outer movements echoing each other: the both commence with the slow Andante introductions in E minor on the same theme which is first heard as a lone clarinet tune at the outset of the symphony. Moreover, the both movements end similarly with two pizzicato chords on strings. The gentle second movement surprises us with its second theme given by bassoons and other winds in an antique fugal manner. The third movement starting with, again, string pizzicato chords over which timpani pounds the main theme, reminds us of Bruckner's vehement scherzos.

Kumiko Nishi

For a profile of Kumiko Nishi, see p. 56

PROGRAM

C

Concert No.1995

NHK Hall

November

10(Fri) **7:30pm**

11(Sat) **2:00pm**

conductor	Gergely Madaras
piano	Tomoki Sakata★
cimbalom	Hiroshi Saito□
concertmaster	Sunao Goko

[**Pre-concert Chamber Music – Exclusive to Program C**]
Friday 10th from 6:45pm / Saturday 11th from 1:15pm
Sunao Goko(vn.), Hiroshi Miyasaka(vc.)
Veress / Sonatina for Violin and Cello—3rd Mov.
Kodály / Duo for Violin and Cello Op. 7—1st Mov.
★ You may enter and leave as you please during the performance.
★ Enjoy chamber music from your own seat.

Béla Bartók
Hungarian Pictures [11′]

I An Evening in the Village
II Bear Dance
III Melody
IV Slightly Tipsy
V Swineherd's Dance

Franz Liszt
Hungarian Fantasy★ [15′]

Zoltán Kodály
***Háry János*, suite□** [25′]

I Prelude: The Fairy Tale begins
II Viennese Musical Clock
III Song
IV The Battle and Defeat of Napoleon
V Intermezzo
VI Entrance of the Emperor and His Court

- This concert will be performed with no intermission.
- All performance durations are approximate.

Artist Profiles

Gergely Madaras, conductor

©Benjamin Ealovega

Conductor Gergely Madaras was born in Budapest in 1984. He has been Music Director of the Liège Royal Philharmonic of Belgium since September 2019. Until now, he has served as Music Director of the Orchestre Dijon Bourgogne in France and Principal Conductor of the Savaria Symphony Orchestra in Hungary, and has guest-conducted the BBC Symphony Orchestra, the BBC Philharmonic, the Orchestre

Philharmonique de Radio France, the Orchester National de Lyon, La Scala Philharmonic Orchestra, Milan to name but a few.

He began his classical musical education studying the flute, violin and composition after learning folk music with the authentic Hungarian Gipsy and peasant musicians at the age of five. He graduated from the Flute Department of the Franz Liszt Academy of Music in Budapest and the Conducting Department of the University of Music and Performing Arts Vienna. He decided to become a conductor at the age of eleven when he had an opportunity to attend a rehearsal of the Budapest Festival Orchestra conducted by Georg Solti, and was mesmerized by the magic of conducting.

His repertoire ranges from the classical to Romantic periods, but on the other hand, he works with contemporary composers such as George Benjamin and Peter Eötvös. He has also established himself as an opera conductor by conducting at Dutch National Opera and the Grand Théâtre de Genève.

On this visit, he will take up music of his native Hungary. Since his childhood, he has been very familiar with music deeply rooted in his native land, therefore I am sure he will be presenting one of his most impressive performances to his audience. This is his first collaboration with the NHK Symphony Orchestra.

Tomoki Sakata, piano

©Hideki Namai

Tomoki Sakata is a Japanese pianist with a dazzling history in competitions including 1st Prize at the 2016 Franz Liszt International Piano Competition and 4th Prize at the 2021 Queen Elisabeth International Music Competition. He has been enthusiastically expanding his career as one of Japan's leading young artists.

After studying music at the High School attached to Tokyo University of the Arts, and subsequently at the University, he completed his bachelor's and master's degrees with honor at the Hannover University of Music and Performing Arts, and is currently studying at the soloist course of the university's graduate school. Ever since he was admitted to the Lake Como Piano Academy, which has produced many world-renowned pianists, as the youngest student, Italy has become one of the places of his further studies. He learned under the tutelage of Paul Badura-Skoda for ten years, and studied composition with Masayuki Nagatomi and Hinoharu Matsumoto. He received the 2017 Yokohama Cultural Award for Encouragement of Arts and Culture, and the 32nd Idemitsu Music Award in 2023.

He has a reputation as an intelligent virtuoso, placing his main repertoire on the Romantic period composers such as Liszt and Chopin, and at the same time, pouring energy into discovering unknown works. I am sure he will delight us with his brilliant technique in playing Liszt, his favorite composer. This is his second appearance with the NHK Symphony Orchestra after his first collaboration in April 2021.

[Gergely Madaras and Tomoki Sakata by Yoichi Iio, music journalist]

Béla Bartók (1881–1945)

Hungarian Pictures

Hungarian composer and pianist Bartók entered in 1899 the Academy of Music in Budapest founded two decades earlier by Liszt (discussed below), one of the greatest musicians Hungary has ever produced. Bartók studied piano under István Thomán, Liszt's pupil, and composition under János Koessler who also trained Kodály (mentioned later). After graduation in 1903, Bartók developed an interest in the folk music of the nation, which was coupled with a rising Hungarian nationalism of the time. It was from this period on that he steadily traveled with wax cylinders in his hand to collect and study the folk songs.

This research deeply inspired Bartók's "classical" outputs in its all aspects. He sometimes used existing folk tunes as his compositional materials and at other times, created melodic, rhythmic or harmonic elements from scratch that sounded just like authentic folk music. And one of the apt illustrations is *Hungarian Pictures* (1931), the suite of five orchestral arrangements that he prepared from his piano works written in 1908-1911.

The opening pentatonic-scale (five-note-scale) theme on clarinet marks already the folksy mood of I *An Evening in the Village*, while II *Bear Dance* lets tuba and timpani suggest the animal entertainer stomping. The only piece scored for harp, slower-moving III *Melody* evokes scorings of Debussy who largely influenced the young Bartók. Following the humorously descriptive IV *Slightly Tipsy*, our composer quotes the Hungarian folk song *Házasodik a tücsök* (*The Cricket is Getting Married*) at V *Swineherd's Dance*.

Franz Liszt (1811–1886)

Hungarian Fantasy

Forward-looking composer, legendary pianist, leading conductor and tireless teacher, Liszt represents the Austro-German Romanticism in music. Among his countless achievements is the double invention of the symphonic genre "tone poem" and the concert form "recital." Moreover, his venturesome harmony exerted a great influence on Wagner (1813–1883), another Austro-German Romantic titan. On the other hand, Liszt, born in Doborján, Hungary (ruled then by Austrian Empire), was always proud of his roots while relocating his home in various places of Europe. In 1839 he made his first return to Hungary in sixteen years. He since visited the native soil many times (and even based in Budapest in his last years) communing with local traditional music and gypsy music that he infamously muddled up. That aside, he left us remarkable, nationalist works of which the most famous example is *Hungarian Rhapsodies*, a set of nineteen piano pieces on existing Hungarian and gypsy tunes.

An adaptation by the composer of *Hungarian Rhapsody* No. 14, *Hungarian Fantasy* (or *Fantasia on Hungarian Folk Melodies*) (1853) is a single-movement piano concerto. The principal theme, derived from the Hungarian folk song *Magosan repül a daru* (*The Crane Flies High*), is announced solemnly by horns and bassoons at the opening. The work sounds improvisational due to its constant changes in tempos and moods, and also its profusion of dazzling cadenzas where the pianist all alone is lavish playing trills (speedy alternations of two notes), runs (long fast passages) and glissandos (gliding on the keyboard).

Zoltán Kodály (1882–1967)

Háry János, suite

Hungarian composer and educator Kodály was also a forefather of ethnomusicology long before the term was created. As with his collaborator Bartók, the fieldwork of collecting folk songs as well as the scientific analysis and classification thereof brought richness and uniqueness to Kodály's own creations.

Háry János: His Adventures from Nagyabony to the Vienna Burg (1928) is a Singspiel-style opera (with dialogues spoken) based on the amusing epic *Az obsitos* (*The Veteran*) by the Hungarian poet János Garay (1812–1853). Similar to *Don Quixote*, it features the old lovable boaster Háry who, in a tavern in the Hungarian village Nagyabony, diverts those present with his overly magnified accounts of his erstwhile feats as a soldier in the Austrian army.

Prepared by the composer for concert, the orchestral suite excellently condenses the comedy of the original opera without being faithful to the plot's flow. I *Prelude; the Fairy Tale Begins* starts with an orchestral "sneeze" (Kodály's expression), implying the stories Háry tells from now on are truthful according to a Hungarian superstition. On the Austrian border, Marie Louise (daughter of the Holy Roman Emperor Francis II and wife of Napoleon) falls in love with Háry so she invites him (and his sweetheart Orsze) to Vienna: scored for tubular bells, glockenspiel and celesta without strings, II *Viennese Musical Clock* describes the chiming bells and the mechanical dolls of the palace's clock. III *Song* (evoking homesickness of Háry and Orsze) and V *Intermezzo* sound Hungarian by far because of the presence of the cimbalom, a flat trapezoidal instrument with metal strings hit by two sticks. Brassy IV *The Battle and Defeat of Napoleon* is from the scene where Háry, unaided, thrashes French forces with ease. Here we hear a takeoff on *La Marseillaise* followed by a comical funeral march. Háry returns in triumph to the Imperial palace in Vienna to meet with the Emperor. After the delusive flashy march (VI *Entrance of the Emperor and His Court*) ended by a mighty blow of the bass drum, Háry declines the Emperor's proposal to give Marie Louise in marriage to him, and goes back to his homeland for Orsze.

Kumiko Nishi

For a profile of Kumiko Nishi, see p. 56

The Subscription Concerts Program 2023–24

2023 12

A

Concert No. **2000**

December
16 (Sat) 6:00pm
17 (Sun) 2:00pm

NHK Hall

The 2000th Subscription Concerts

Mahler Symphony No. 8 E-flat Major,
Symphonie der Tausend (*Symphony of Thousand*)
Fabio Luisi, conductor **Jacquelyn Wagner★, Valentina Farcas, Rie Miyake,** sopranos
Olesya Petrova, Catriona Morison, altos **Michael Schade,** tenor
Luke Sutliff, baritone **David Steffens,** bass
New National Theatre Chorus, chorus
NHK Tokyo Children Chorus, children chorus ★Changed from initially scheduled.

Ordinary	Youth
S 12,000	S 6,000
A 10,000	A 5,000
B 8,000	B 4,000
C 6,500	C 3,200
D 5,000	D 2,500
E 3,300	E 1,600

B

Concert No. **1999**

December
6 (Wed) 7:00pm
7 (Thu) 7:00pm

Suntory Hall

The 150th Anniversary of Max Reger's Birth

Haydn Symphony No. 100 G Major Hob. I-100, *Military*
Liszt Piano Concerto No. 1 E-flat Major
Reger Variations and Fugue on a Theme by Mozart Op. 132

Fabio Luisi, conductor **Alice-Sara Ott**, piano

Ordinary	Youth
S 9,800	S 4,500
A 8,400	A 4,000
B 6,700	B 3,300
C 5,400	C 2,500
D 4,400	D 1,800

C

Concert No. **1998**

December
1 (Fri) 7:30pm
2 (Sat) 2:00pm

NHK Hall

Humperdinck *Hänsel und Gretel*, opera—*Prelude* (*Hansel and Gretel*)
Berlioz *Symphonie fantastique*, Op. 14 (*Fantastical Symphony*)

Fabio Luisi, conductor

Ordinary	Youth
S 7,600	S 3,500
A 6,700	A 3,000
B 5,300	B 2,400
C 4,300	C 1,900
D 3,300	D 1,400
E 1,600	E 800

2024 01

A

Concert No. **2001**

January
13 (Sat) 6:00pm
14 (Sun) 2:00pm

NHK Hall

Bizet / Shchedrin *Carmen Suite*, ballet
Ravel *Ma mère l'Oye*, suite (*Mother Goose*)
Ravel *La valse*, ballet

Tugan Sokhiev, conductor

Ordinary	Youth
S 9,100	S 4,000
A 7,600	A 3,500
B 5,900	B 2,800
C 4,800	C 2,100
D 3,800	D 1,500
E 2,000	E 1,000

B

Concert No. **2003**

January
24 (Wed) 7:00pm
25 (Thu) 7:00pm

Suntory Hall

Mozart Sinfonia Concertante for Violin and Viola E-flat Major K. 364
Beethoven Symphony No. 3 E-flat Major Op. 55, *Eroica* (*Heroic Symphony*)

Tugan Sokhiev, conductor
Sunao Goko (Guest concertmaster, NHKSO), violin★
Junichiro Murakami (Principal Viola, NHKSO), viola
★Changed from initially scheduled.

Ordinary	Youth
S 9,800	S 4,500
A 8,400	A 4,000
B 6,700	B 3,300
C 5,400	C 2,500
D 4,400	D 1,800

C

Concert No. **2002**

January
19 (Fri) 7:30pm
20 (Sat) 2:00pm

NHK Hall

Liadov *Kikimora*, légende Op. 63
Prokofiev /Sokhiev *Romeo and Juliet*, ballet suite

Tugan Sokhiev, conductor

Ordinary	Youth
S 7,600	S 3,500
A 6,700	A 3,000
B 5,300	B 2,400
C 4,300	C 1,900
D 3,300	D 1,400
E 1,600	E 800

2024 02

A

Concert No. **2004**

February
3 (Sat) 6:00pm
4 (Sun) 2:00pm

NHK Hall

Johann Strauss II *Im Krapfenwald'l*,
polka française Op. 336 (*In Krapfen's Woods*)
Shostakovich Suite for Variety Orchestra No. 1
—*March*, *Lyrical Waltz*, *Little Polka*, *Waltz II*
Shostakovich Symphony No. 13 B-flat Minor Op. 113, *Babi Yar*★[1]

Michiyoshi Inoue, conductor **Alexey Tikhomirov**, bass★[1, 2]
Orphei Drängar, male chorus★[1] ★[2] Changed from initially scheduled.

Ordinary	Youth
S 9,800	S 4,500
A 8,400	A 4,000
B 6,700	B 3,300
C 5,400	C 2,500
D 4,400	D 1,800
E 2,800	E 1,400

B

Concert No. **2006**

February
14 (Wed) 7:00pm
15 (Thu) 7:00pm

Suntory Hall

Ravel *Rapsodie espagnole* (*Spanish Rhapsody*)
Prokofiev Violin Concerto No. 2 G Minor Op. 63
Falla *El sombrero de tres picos*, ballet (complete) (*The Three-Cornered Hat*)★

Pablo Heras-Casado, conductor
Augustin Hadelich, violin
Tamayo Yoshida, soprano★

Ordinary	Youth
S 9,800	S 4,500
A 8,400	A 4,000
B 6,700	B 3,300
C 5,400	C 2,500
D 4,400	D 1,800

C

Concert No. **2005**

February
9 (Fri) 7:30pm
10 (Sat) 2:00pm

NHK Hall

Wagner *Siegfried Idyll*
R. Strauss *Ein Heldenleben*, symphonic poem Op. 40 (*A Hero's Life*)

Eiji Oue, conductor

Ordinary	Youth
S 7,600	S 3,500
A 6,700	A 3,000
B 5,300	B 2,400
C 4,300	C 1,900
D 3,300	D 1,400
E 1,600	E 800

(consumption tax included)

A NHK Hall
Sat. 6:00pm (doors open at 5:00pm)
Sun. 2:00pm (doors open at 1:00pm)

B Suntory Hall
Wed. 7:00pm (doors open at 6:20pm)
Thu. 7:00pm (doors open at 6:20pm)

C NHK Hall
Fri. 7:30pm (doors open at 6:30pm)
Sat. 2:00pm (doors open at 1:00pm)

2024 04

A — Concert No. 2007
April
13 (Sat) 6:00pm
14 (Sun) 2:00pm
NHK Hall

Schubert Symphony No. 4 C Minor D. 417
Brahms Symphony No. 1 C Minor Op. 68

Marek Janowski, conductor

	Ordinary	Youth
S	9,100	4,000
A	7,600	3,500
B	5,900	2,800
C	4,800	2,100
D	3,800	1,500
E	2,000	1,000

B — Concert No. 2009
April
24 (Wed) 7:00pm
25 (Thu) 7:00pm
Suntory Hall

Schumann *Genoveva*, opera Op. 81—Overture
Schumann Cello Concerto A Minor Op. 129
Schumann Symphony No. 2 C Major Op. 61

Christoph Eschenbach, conductor
Kian Soltani, cello

	Ordinary	Youth
S	9,800	4,500
A	8,400	4,000
B	6,700	3,300
C	5,400	2,500
D	4,400	1,800

C — Concert No. 2008
April
19 (Fri) 7:30pm
20 (Sat) 2:00pm
NHK Hall

Bruckner Symphony No. 7 E Major

Christoph Eschenbach, conductor

	Ordinary	Youth
S	7,600	3,500
A	6,700	3,000
B	5,300	2,400
C	4,300	1,900
D	3,300	1,400
E	1,600	800

2024 05

A — Concert No. 2010
May
11 (Sat) 6:00pm
12 (Sun) 2:00pm
NHK Hall

Panfili *Abitare la battaglia* [Japan Premiere]
Respighi *Fontane di Roma*, symphonic poem (*Fountains of Rome*)
Respighi *Pini di Roma*, symphonic poem (*Pines of Rome*)
Respighi *Feste Romane*, symphonic poem (*Roman Festivals*)

Fabio Luisi, conductor

	Ordinary	Youth
S	9,800	4,500
A	8,400	4,000
B	6,700	3,300
C	5,400	2,500
D	4,400	1,800
E	2,800	1,400

B — Concert No. 2012
May
22 (Wed) 7:00pm
23 (Thu) 7:00pm
Suntory Hall

Brahms Piano Concerto No. 1 D Minor Op. 15
Nielsen Symphony No. 2 B Minor Op. 16, *The 4 Temperaments*

Fabio Luisi, conductor
Rudolf Buchbinder, piano

	Ordinary	Youth
S	9,800	4,500
A	8,400	4,000
B	6,700	3,300
C	5,400	2,500
D	4,400	1,800

C — Concert No. 2011
May
17 (Fri) 7:30pm
18 (Sat) 2:00pm
NHK Hall

Mendelssohn *A Midsummer Night's Dream*
—*Overture*, *Nocturne*, *Scherzo*, *Wedding March*
Mendelssohn Symphony No. 5 D Minor Op. 107, *Reformation*

Fabio Luisi, conductor

	Ordinary	Youth
S	7,600	3,500
A	6,700	3,000
B	5,300	2,400
C	4,300	1,900
D	3,300	1,400
E	1,600	800

2024 06

A — Concert No. 2013
June
8 (Sat) 6:00pm
9 (Sun) 2:00pm
NHK Hall

Scriabin *Rêverie*, Op. 24
Scriabin Piano Concerto F-sharp Minor Op. 20
Scriabin Symphony No. 2 C Minor Op. 29

Keitaro Harada, conductor
Kyohei Sorita, piano

	Ordinary	Youth
S	9,100	4,000
A	7,600	3,500
B	5,900	2,800
C	4,800	2,100
D	3,800	1,500
E	2,000	1,000

B — Concert No. 2015
June
19 (Wed) 7:00pm
20 (Thu) 7:00pm
Suntory Hall

Webern Passacaglia Op. 1
Schönberg Violin Concerto Op. 36
J. S. Bach / Webern Ricercata
Schubert Symphony No. 5 B-flat Major D. 485

Masato Suzuki, conductor
Isabelle Faust, violin

	Ordinary	Youth
S	9,800	4,500
A	8,400	4,000
B	6,700	3,300
C	5,400	2,500
D	4,400	1,800

C — Concert No. 2014
June
14 (Fri) 7:30pm
15 (Sat) 2:00pm
NHK Hall

Ibert *Escales* (*Ports of Call*)
Ravel Piano Concerto for the Left Hand
Debussy *Nocturnes**

Nodoka Okisawa, conductor
Denis Kozhukhin, piano
The Philharmonic Chorus of Tokyo, female chorus*

	Ordinary	Youth
S	7,600	3,500
A	6,700	3,000
B	5,300	2,400
C	4,300	1,900
D	3,300	1,400
E	1,600	800

(consumption tax included)

All performers and programs are subject to change or cancellation depending on the circumstances.

N響関連のお知らせ

いつでも どこでも、NHKの番組を。

NHK+

利用登録はこちらから

https://plus.nhk.jp/info/

総合・Eテレの番組を
スマホやタブレット・
パソコン・テレビ[※1(一部)]で
放送から1週間[※2]何度でも
お楽しみいただけます！

※1 テレビでは見逃し番組配信のみ
※2 地域の番組の一部は最長2週間配信

アプリで便利に！

メールアドレスとパスワードを入力するだけで
すぐに見逃し配信をご覧いただけます

※放送受信契約のある世帯の方が追加のご負担なく利用できるサービスです

スマホやPCでNHKラジオが楽しめる！

NHKラジオ
らじる★らじる

スマートフォンやパソコンでラジオ第1（R1）・ラジオ第2（R2）・NHK-FMの放送をリアルタイムで聴くことができます。スマートフォンならアプリでもお楽しみいただけます。http://www.nhk.or.jp/radio

放送が終わっても
楽しめる！
聴き逃し

放送終了後1週間／
聴き逃し対象番組のみ

スマートフォン用アプリはこちらから

伝えるチカラ

NHK財団

◎ 公共メディアNHKを社会へ
◎ 社会貢献事業で、次世代の未来を応援！

2023年4月、NHKグループの4つの一般財団法人が合併して、NHK財団が発足しました。子法人の公益財団法人「NHK交響楽団」と共に、事業を進めていきます。

ステラnet

NHK財団の最新情報はこちらから

役員等・団友

役員等

理事長	今村啓一
常務理事	中野谷公一　三溝敬志
理事	相川直樹　内永ゆか子　岡田知之　笠原裕之　杉山博孝　銭谷眞美　團 宏明　毛利 衛
監事	浜村和則　江口貴之
評議員	稲葉延雄　江頭敏明　樺山紘一　熊埜御堂 朋子　清野 智　田中宏暁　檀 ふみ　坪井節子 前田昭雄　松居 径　三浦 惺　山名啓雄　渡辺 修

事務局

演奏制作部

岩渕一真　高木かおり　宮﨑則匡
山田大祐　沖 あかね　黒川大亮
石井 康　内山弥生　上原 静
北見佳織　徳永匡哉　木村英代
利光敬司　髙橋 啓

企画プロモーション部

田内誠人
猪股正幸
吉賀亜希
三浦七菜子

経営管理部

野村 歩　姫野 恵
浅田武志　杉山真知子
山本能寛
吉田麻子
目黒重治

技術主幹

尾澤 勉

芸術主幹

西川彰一

団友

名誉コンサートマスター

堀 正文

ヴァイオリン

板橋 健
梅澤美保子
海野義雄
大澤 浄
大林修子
大松八路
金田幸男
川上朋子
川上久雄
窪田茂夫
黒柳紀明
公門俊之
齋藤真知亜
酒井敏彦
清水謙二
鈴木弘一
武内智子
田渕 彰
田中 裕
鶴我裕子
徳永二男
中瀬裕道
永峰高志
根津昭義
堀 伝
堀江 悟
前澤 均
宮里親弘
武藤伸二
村上和邦
山口裕之
蓬田清重

ヴィオラ

大久保淑人
小野富士
梯 孝則
河野昌彦
菅沼準二
店村眞積
田渕雅子
中竹英昭
三原征洋
村山 弘
渡部啓三

チェロ

岩井雅音
木越 洋
齋藤鶴吉
三戸正秀
銅銀久弥
丹羽経彦
平野秀清
藤井 晃
藤本英雄
茂木新緑

コントラバス

井戸田善之
志賀信雄
田中雅彦
中 博昭
佐川裕昭
新納益夫

フルート

菅原 潤
細川順三
宮本明恭

オーボエ

青山聖樹
北島 章
浜 道晃
茂木大輔

クラリネット

磯部周平
加藤明久
横川晴児

ファゴット

岡崎耕治
霧生吉秀

ホルン

大野良雄
田村 宏
中島大之
樋口哲生
松﨑 裕
山田桂三
山本 真

トランペット

井川明彦
北村源三
来馬 賢
関山幸弘
津堅直弘
栃本浩規
福井 功
佛坂咲千生

トロンボーン

伊藤 清
神谷 敏
栗田雅勝
関根五郎
三輪純生

テューバ

多戸幾久三
原田元吉

打楽器

有賀誠門
岡田知之
瀬戸川 正
百瀬和紀

ピアノ

本荘玲子

理事長

曽我 健
田畑和宏
野島直樹
日向英実
木田幸紀
森 茂雄
今井 環
根本佳則

役員

加納民夫
唐木田信也
斉藤 滋
関川精二
鳴嶋郁夫
原 武
山崎大樹

事務局

稲川 洋
入江哲之
金沢 孝
小林文行
清水永一郎
関 照枝
中馬 究
出口修平
西村集介
芳賀由明
松崎ユリ
望戸一男
諸岡 淳
吉田博志
渡辺 克
渡辺克己

フィルハーモニー2023年11月号｜第95巻 第8号
2023年11月1日発行　ISSN 1344-5693

公益財団法人NHK交響楽団
〒108-0074 東京都港区高輪2-16-49
TEL：(03) 5793-8111 / FAX：(03) 3443-0278
発行人◎三溝敬志／編集人◎猪股正幸

企画・編集：(一財)NHK財団
取材・編集：(株)アルテスパブリッシング
表紙・本文デザイン：寺井恵司

印刷：佐川印刷株式会社
©無断転載・複製を禁ず

花士 珠寳／「目の眼」12 月号特集より

骨董・古美術月刊誌

目の眼

12 月号｜11/15 発売

特集 **花合わせ 古器物にいける**

定期購読受付中

最新号 WEB 無料公開中

menomeonline.com

NHK
音楽祭
MUSIC FESTIVAL
～名曲と出会う場所～
2023
MEET the CLASSICS

The 20th Anniversary

巨匠フェドセーエフが
悠揚迫らざるテンポで描く、
チャイコフスキーの名曲を
5年ぶりに全曲演奏！

© Oleg Nachinkin

11月20日(月) 19:00開演

共催：NHK交響楽団
協賛：岩谷産業

NHK交響楽団

指揮：ウラディーミル・フェドセーエフ
児童合唱：東京少年少女合唱隊

チャイコフスキー／
バレエ音楽「くるみ割り人形」作品71 全曲

写真提供：NHK交響楽団

© Laura Stevens

9年ぶりの来日！新音楽監督・天才シャニとともに
伝統の音色が響き、こころを揺さぶる

11月23日(木・祝) 16:00開演

イスラエル・フィルハーモニー管弦楽団

指揮：ラハフ・シャニ
バイオリン：庄司紗矢香

ツヴィ・アブニ／祈り
ベートーベン／
バイオリン協奏曲 ニ長調 作品61
ベートーベン／
交響曲第7番 イ長調 作品92

好評発売中

NHKホール

入場料（消費税込）

予定枚数終了　残席わずか　※売り切れの際はご容赦ください。

公　演	公演日	開演	終演予定	SS席	S席	A席	B席	C席	D席	U-25席
NHK交響楽団	11/20(月)	19:00	21:00	10,000	8,500	7,000	5,500	4,500	3,000	1,500
イスラエル・フィルハーモニー管弦楽団	11/23(木・祝)	16:00	18:00	21,000	18,000	12,000	8,000	6,000	4,500	2,000

割引チケットのご案内（SS席～B席対象）
同時に2公演お申込みいただいた場合、料金が5%割引になります。取り扱いは、NHKプロモーションの「インターネット受付」「電話予約」のみです。詳しくは、NHKプロモーションまでお問い合わせください。

●お問い合わせ
ハローダイヤル　050-5541-8600 / 9:00～20:00(無休)
NHKホームページ　http://nhk.jp/event

NHKプロモーション
音楽祭係 TEL. 03-3468-7736 /平日11:00～17:00
https://www.nhk-p.co.jp/

主催：NHK、NHKプロモーション　協賛：Canon キヤノンマーケティングジャパン　MIZUHO みずほ銀行

かんぽ生命 presents

NHKSO
NHK SYMPHONY ORCHESTRA
TOKYO

N響第九

Special Concert

2023年12月27日（水）7:00pm
サントリーホール
Wednesday, December 27, 2023 Suntory Hall

© 広島交響楽団

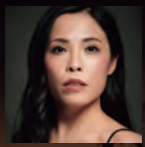
バッハ／18のライプチヒ・コラール ―「装いせよ、おお、愛する魂よ」BWV654
Bach 18 Chorales, *Leipziger Chorale — Schmücke dich, o liebe Seele*, BWV654
オルガン：勝山 雅世
Masayo Katsuyama, organ

バーバー／弦楽のためのアダージョ
Barber Adagio for Strings

ベートーヴェン
交響曲 第9番 ニ短調
作品125「合唱つき」
Beethoven Symphony No.9 D Minor Op.125, *Choral*

指 揮：下野 竜也
Tatsuya Shimono, conductor

合唱：新国立劇場合唱団
New National Theatre Chorus, chorus

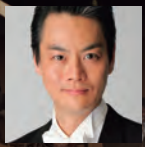


ソプラノ：中村 恵理
Eri Nakamura, soprano

©Studio Amati Bacciardi

メゾ・ソプラノ：脇園 彩
Aya Wakizono, mezzo soprano

テノール：村上 公太
Kota Murakami, tenor



バス：河野 鉄平
Teppei Kono, bass

一般：S￥17,500 A￥14,500 B￥11,500 C￥8,000
ユースチケット（25歳以下）：
S￥8,750 A￥7,250 B￥5,750 C￥4,000
※全て税込価格

発売開始：10月9日（月・祝）10:00am
N響定期会員先行発売日：10月3日（火）10:00am
［定期会員は一般料金から10%割引］

お問い合わせ：N響ガイド 0570-02-9502（営業日・営業時間はN響ホームページでご確認ください）

前売所
- WEBチケットN響 ..... https://nhkso.pia.jp
- N響ガイド 0570-02-9502
- サントリーホールチケットセンター.... 0570-55-0017 suntory.jp/HALL/
- チケットぴあ ..... pia.jp/t/nhkso
- e+（イープラス） ..... eplus.jp/nhkso
- ローソンチケット ..... l-tike.com/nhkso

• ユースチケットはWEBチケットN響およびN響ガイドのみのお取り扱いとなります。初回ご利用時に年齢確認のための「ユース登録」が必要となります。詳細はN響ホームページをご覧ください。• 定期会員割引・先行発売はWEBチケットN響およびN響ガイドのみのお取り扱いとなります。• 車いす席をご希望の方は、N響ガイドへお問い合わせください。• N響ガイドでのお申し込みは、公演日の1営業日前までとなります。• やむを得ない理由で出演者や曲目等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。公演中止の場合をのぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません。• 未就学児のご入場はお断りしています。• 公演に関する最新の情報はN響ホームページでご確認ください。

主催：NHK交響楽団
特別協賛：株式会社かんぽ生命保険

進化するぬくもり。
JP INSURANCE かんぽ生命

BEETHOVEN

NHKSO
NHK SYMPHONY ORCHESTRA
TOKYO

N響第9

NHK交響楽団
ベートーヴェン「第9」演奏会
Beethoven 9th Symphony Concerts

バーバー／弦楽のためのアダージョ
Barber Adagio for Strings

ベートーヴェン／
交響曲 第9番
ニ短調 作品125「合唱つき」
Beethoven Symphony No.9 D minor op.125, *Choral*

2023年
12/22 金 7:00pm | **12/23** 土 2:00pm
12/24 日 2:00pm | **12/26** 火 7:00pm*
NHKホール
*12月26日はNHK厚生文化事業団主催のチャリティコンサートです

お問い合わせ
N響ガイド：0570-02-9502
（営業日・営業時間はN響ホームページでご確認ください）
NHK厚生文化事業団：03-3476-5955
（26日公演のみ、平日10:00am～6:00pm）

主催：NHK／NHK交響楽団
主催（26日）：NHK／NHK厚生文化事業団

協賛：みずほ証券株式会社
はごろもフーズ株式会社
株式会社明電舎

指揮
下野 竜也

ソプラノ
中村 恵理

メゾ・ソプラノ
脇園 彩

テノール
村上 公太

バス
河野 鉄平

合唱：新国立劇場合唱団

チケット発売開始：
10月9日（月・祝）10:00am

N響定期会員先行発売日（26日公演をのぞく）：
10月3日（火）10:00am
［定期会員は一般料金から10%割引、26日公演をのぞく］

料金（税込）：
一般 S￥15,000 A￥12,000 B￥9,000 C￥6,500 D￥4,500
ユースチケット（25歳以下） S￥7,500 A￥6,000 B￥4,500 C￥3,250 D￥2,250

前売所：
WEBチケットN響 https://nhkso.pia.jp/
N響ガイド 0570-02-9502
チケットぴあ pia.jp/t/nhkso/
e+（イープラス） eplus.jp/nhkso/
ローソンチケット l-tike.com/nhkso

●ユースチケットはWEBチケットN響およびN響ガイドのみのお取り扱いとなります。初回ご利用時に年齢確認のための「ユース登録」が必要となります。詳細はN響ホームページをご覧ください。●定期会員割引・先行発売はWEBチケットN響およびN響ガイドのみのお取り扱いとなります。●車いす席をご希望の方は、N響ガイド（26日公演のみNHK厚生文化事業団）へお問い合わせください。●やむを得ない理由で出演者や曲目等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。公演中止の場合をのぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません。●未就学児のご入場はお断りしています。●公演に関する最新の情報はN響ホームページでご確認ください。

SYMPHONY No.9

NHKSO
NHK SYMPHONY ORCHESTRA
TOKYO

NHK Symphony Orchestra, Tokyo

The 2000th Subscription Concerts

N響 第2000回 定期公演

2023年 （2023年12月 Aプログラム）

12月16日｜土｜6:00pm
12月17日｜日｜2:00pm NHKホール
Sat., 16, 6:00pm / Sun., 17 2:00pm, Dec. 2023 NHK Hall

マーラー「一千人の交響曲」

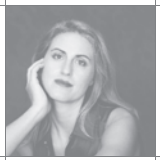
Mahler Symphonie der Tausend

マーラー／交響曲 第8番
変ホ長調「一千人の交響曲」（ファン投票選出曲）
Mahler Symphony No. 8 E-flat Major, *Symphonie der Tausend (Symphony of Thousand)*

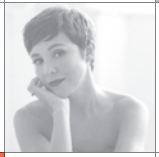
指揮｜ファビオ・ルイージ
（NHK交響楽団 首席指揮者）
Fabio Luisi, conductor
(Chief Conductor of NHK Symphony Orchestra)

Yasuko Miyazaki(SEPT)

ソプラノ soprano
ジャクリン・ワーグナー
Jacquelyn Wagner

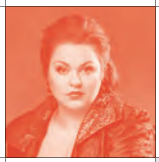


ソプラノ soprano
ヴァレンティーナ・ファルカシュ
Valentina Farcas



合唱｜新国立劇場合唱団
児童合唱｜NHK東京児童合唱団
New National Theatre Chorus, chorus
NHK Tokyo Children Chorus, children chorus

ソプラノ soprano
三宅理恵
Rie Miyake



アルト alto
オレシア・ペトロヴァ
Olesya Petrova

テノール tenor
ミヒャエル・シャーデ
Michael Schade

アルト alto
カトリオーナ・モリソン
Catriona Morison

バス bass
ダーヴィッド・シュテフェンス
David Steffens

バリトン baritone
ルーク・ストリフ
Luke Sutliff

主催 NHK／NHK交響楽団
特別支援 岩谷産業株式会社
三菱地所株式会社
株式会社みずほ銀行
公益財団法人渋谷育英会
特別協力 BMWジャパン
全日本空輸株式会社
ヤマハ株式会社
株式会社バレスホテル
ぴあ株式会社

｜お問い合わせ｜N響ガイド：0570-02-9502｜営業時間｜
10:00am～5:00pm（定休日：土・日・祝日）＊主催公演開催日は曜日に関わらず10:00am～開演時刻まで営業いたします。＊発売日初日の土・日・祝日10:00am～3:00pmの営業となります。＊電話受付のみの営業となります。

好評発売中　料金（税込／全席指定）｜一般｜S:¥12,000 A:¥10,000 B:¥8,000 C:¥6,500 D:¥5,000 E:¥3,300｜ユースチケット（25歳以下）｜S:¥6,000 A:¥5,000 B:¥4,000 C:¥3,200 D:¥2,500 E:¥1,600｜前売所｜WEBチケットN響 https://nhkso.pia.jp、N響ガイド 0570-02-9502、チケットぴあ pia.jp/t/nhkso、e+（イープラス）eplus.jp/nhkso、ローソンチケット l-tike.com/nhkso○ユースチケット（25歳以下）はWEBチケットN響およびN響ガイドのみのお取り扱いとなります。初回ご利用時に年齢確認のための「ユース登録」が必要となります。○1回券、定期会員割引・先行発売のお取り扱いはWEBチケットN響およびN響ガイドのみとなります。○車いす席についてはN響ガイドにお問い合わせください。○N響ガイドでのお申し込みは、公演日の1営業日前までとなります。○未就学児のご入場はお断りしています。○やむを得ない理由で出演者や曲目等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。公演中止の場合をのぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません。○公演に関する最新情報はN響ホームページでご確認ください。

PHILHARMONY 11
フィルハーモニー
第95巻第8号
ISSN 1344-5693
定価300円 消費税込み

脱炭素の道へ。
水素とLPガスが加速する。

2050年、温暖化ガス排出実質ゼロ社会の実現を目指して。
イワタニはLPガス・Marui gas（マルオプロパン）の全国330万世帯以上の販売ネットワークを活かし
脱炭素の主役となる水素を暮らしと産業にお届けする準備を進めています。
さらに、環境への負荷を減らすために、水素やアンモニアを混合した
低炭素なLPガスの開発をはじめ、廃プラスチックやバイオガス由来の
水素やLPガス製造、新しいLPガス合成技術などを推進。
私たちは、水素とLPガスで確かな答えを持つ
クリーンエネルギーのトップランナーとして走り続けます。

水素&LPガス シェアNo.1※
※国内における販売シェア（ただし、水素はオンサイト・パイピングを除く。2023年5月現在、自社調べ）

Iwatani
岩谷産業株式会社